

文 学 部

履 修 要 項

昭 和 58 年 度

駒 澤 大 學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(金) 入学式(学部・短大・大学院)
 釈尊降誕会
- 9日(土) } 新入生オリエンテーション
 }
 13日(水) }
 12日(火) } 在校生成績発表
 } (学部・短大・大学院)
 13日(水) }
 14日(木) } 授業開始
 } 在校生成績質疑応答
 16日(土) }
 20日(水) } 1年次生単位履修届受付
 }
 21日(木) }
 22日(金) } } 2・3・4年次生
 28日(木) } } 単位履修届受付
 29日(金) } } 天皇誕生日 (学部により受付日が異なる)
- 5月1日(日) 祝禱日
 2日(月) 研修日(全学休業)
 3日(火) 憲法記念日
 4日(水) 研修日(全学休業)
 5日(木) こどもの日
 10日(火) } 2・3・4年次生健康診断
 }
 19日(水)
- 6月1日(木) 祝禱日
 9日(木) 卒業論文論題提出締切
- 7月1日(金) 祝禱日
 7日(木) } 中間試験(授業平常通り)
 }
 13日(水) }
 14日(木) } 前期定期試験(前期終了科目)
 } (授業休講)
 15日(金) 孟蘭盆会
 16日(土) 夏期休暇第1日
- ## 後 期
- 9月12日(月) 授業再開
 13日(火) 前期定期試験欠試届(追試申込)提出締切
 15日(木) 敬老の日
 16日(金) 外国語指定届受付(22日まで)
 (仏教・文(除英米文)・法学部及び短大国文の1年次生, 経済学部の2年次生)
 16日(金) } 前期定期試験成績発表および
 } 再試験申込受付
 17日(土) }
 23日(金) 秋分の日
 26日(月) } 前期追・再試験(授業平常通り)
 }
 27日(火) }

- 29日(木) 両祖(道元・瑩山禪師)忌
 10月1日(土) 祝禱日
 3日(月) }
 } 1年次生健康診断
 5日(水) }
 6日(木) } 達磨忌
 6日(木) } 社会学科(1年次生)・
 } 歴史学科(2年次生)・
 7日(金) } 専攻コース指定届受付
 10日(月) 体育の日
 15日(土) 第101回開校記念日
 18日(火) } 前期追・再試験成績発表
 }
 19日(水)
- 11月1日(火) 祝禱日
 3日(木) 文化の日
 21日(月) 太祖(瑩山禪師)降誕会
 23日(水) 勤労感謝の日
- 12月1日(木) 祝禱日
 } 転部科試験願書受付
 }
 3日(土)
 5日(月) 編入学願書受付(13日まで)
 8日(木) 成道会
 9日(金) 転部科試験
 10日(土) 卒業論文提出締切(正午)
 19日(月) 冬期休暇第1日
 20日(火) 編入学試験
- 昭和59年
- 1月9日(月) 授業再開
 15日(日) 成人の日
 17日(火) } 定期試験(専門・基礎・教職
 } 科目)
 27日(金)
 26日(木) 高祖(道元禪師)降誕会
 28日(土) } 定期試験(一般・外国語・
 } 体育科目)
 2月1日(木) 祝禱日
 6日(日)
- 7日(火) } 定期試験欠試届提出締切
 } 卒業論文口頭試問(後日揭示
 } 発表)
 11日(土) 建国記念の日
 15日(水) 涅槃会
 21日(火) } 学部4年次生・短大生成績発表
 } 表および追・再試験申込受付
 22日(水) }
 28日(火) } 学部4年次生・短大
 } 生追・再試験, 学部
 3月1日(木) } 祝禱日 } 1・2・3年次生追
 } } 試験
 5日(月)
 19日(月) 卒業生名簿発表
 20日(火) 春分の日
 25日(日) 卒業式・大学院修了式

目 次

I	単位制と学年制	(2)
	1. 単位と学年	(2)
	2. 授業科目の単位計算	(2)
	3. 授業科目の区分	(2)
II	卒業に必要な単位数と卒業論文	(3)
	1. 卒業に必要な単位数	(3)
	2. 卒業論文	(9)
	3. 学 士 号	(9)
III	授業科目の履修方法	(10)
	1. 一般教育科目の履修方法	(10)
	2. 外国語科目の履修方法	(12)
	3. 保健体育科目の履修方法	(15)
	4. 基礎教育科目の履修方法	(17)
	5. 専門教育科目の履修方法	(18)
	6. 随意科目の履修方法	(46)
	7. 再履修科目の履修方法	(46)
	※コード番号について	(47)
IV	履修科目の登録(履修届)とその作成順序	(50)
	1. 履修科目の登録	(50)
	2. 履修届記入上の注意	(51)
	3. 履修届の作成順序	(52)
V	試験および成績評価	(54)
	1. 定期試験	(54)
	2. 中間試験	(54)
	3. 追・再試験	(54)
	4. 成績評価・単位認定	(55)
	5. 進級基準	(55)
	6. 受験者心得	(55)
VI	クラス制およびクラス主任	(57)
VII	教職課程・資格講座	(57)
VIII	事務取り扱いについて	(58)
IX	届書・願書について	(60)
X	各種証明書取扱い窓口	(61)
	講 義 内 容	(63)

I 単位制と学年制

1. 単位と学年

授業科目の履修は「大学設置基準」に基づく単位制によって行う。単位制とは、授業科目を履修することにより、一定の基準によって与えられている各授業科目の単位を修得することである。従って、各入学年度の履修要項に定められている卒業に必要な単位を4年以上（7カ年をこえてはならない）の在学期間中に修得すれば卒業の資格が得られる。

しかしながら、本学では単位修得を体系的かつ合理的に進めるために、各年次において必修すべき科目と選択すべき科目が配当されているから、単位制と学年制の総合された学修制度といえる。

2. 授業科目の単位計算

授業科目の単位数は次のような基準によって定められている。

1単位とは、1科目につき45時間を通じて行う学修活動のことである。この45時間の学修活動は、教室における授業時間と教室外で学生各自が自主的に行う自習時間からなっていて、授業時間と自習時間の割合は授業科目によって異なる。

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目（人文分野・社会分野・自然分野）
2. 外国語科目（第1外国語・第2外国語）
3. 保健体育科目（講義・実技）
4. 基礎教育科目（必修科目）
5. 専門教育科目（必修科目・選択科目）
6. 随意科目（卒業に必要な単位に含まれない科目）
 - (a) 必修科目……必ず履修しなければならない科目
 - (b) 選択必修科目……数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
 - (c) 選択科目……自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と卒業論文

1. 卒業に必要な単位数

国文学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	} 128以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	36	72	
	選択		28		
	卒論(必修)		8		

英米文学科

A. 58年度入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	7	28	72	
	選択		36		
	卒論(必修)		8		

B. 57年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	28	130以上
	社会分野	2	8		
	自然分野	1	4		
外国語科目	第1外国語	5	10	14	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		5	12	12	
専門教育科目	必修	6	24	72	
	選択		40		
	卒論(必修)		8		

地理学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		2	8	8	
専門教育科目	必修	6	16	72	
	選択		48		
	卒論(必修)		8		

歴史学科

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	4	16	36	128以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		1	4	4	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒論(必修)		8		

社会学科

社会学コース

A. 57年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒論(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	8	32	72	
	選択		32		
	卒論(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用

社会福祉コース

A. 57年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	12	48	72	
	選択		16		
	卒論(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	等2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	9(10)	36(40)	72	
	選択		28(24)		
	卒論(必修)		8		

※ () 内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

心理学コース

A. 57年度以降入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3	12	12	
専門教育科目	必修	8	28	72	
	選択		36		
	卒論(必修)		8		

B. 56年度以前入学生適用

授業科目の区分		科目数	修得単位	計	合計
一般教育科目	人文分野	3	12	32	132以上 (128)
	社会分野	3	12		
	自然分野	2	8		
外国語科目	第1外国語	4	8	12	
	第2外国語	2	4		
保健体育科目	講義	1	2	4	
	実技	1	2		
基礎教育科目		3(2)	12(8)	12(8)	
専門教育科目	必修	11	38	72	
	選択		26		
	卒論(必修)		8		

※()内の数字は昭和53年度以前入学生適用。

2. 卒業論文

イ. 4年次で卒業論文（1部）を提出し、その審査に合格しなければ卒業することができない。審査に合格した者には8単位を与える。

ロ. 論題提出

あらかじめ自己の研究目標をたて、2年次以降適当な選択科目を履修し、4年次において、（地理学科は3年次）学部所属の教員に自己の研究概要を述べ、指導教授を決定し、その承認を得て、指定の期日6月9日（木）までに卒業論文の論題を届け出なければならない。

ハ. 論文作成について

- (1) 論文作成にあたっては常に指導教授に相談して、その指導を受けなければならない。
- (2) 用紙は大学所定の論文用紙を使用すること。
- (3) 論文の枚数は別に指示する。
- (4) 表紙は指定のものを使用し、論文を二つ折りして右とじとする（英米文学科・地理学科を除く）。
- (5) 上記の規定以外のものは受付けない。

ニ. 論文の提出期限 12月10日（土）正午まで

論文は12月初旬までに完成し、誤字、脱字、内容について点検してから期日までに教務部に提出すること。

ホ. 論文の審査について

論文は指導教授（社会学科は他に定められた1名の指定教授）によって2月中旬までに審査され、論文の内容について口頭試問を行ったのち合格を判定する。

3. 学 士 号

大学に4カ年以上在学（7カ年をこえてはならない）し、卒業に必要な単位を修得した者には卒業証書を授与し、次の称号が与えられる。

国 文 学 科	}	文 学 士
英 米 文 学 科		
地 理 学 科		
歴 史 学 科		
社 会 学 科		

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配分する。ただし、随意科目はこの限りではない。
- ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は本人の学生番号のクラスで履修すること。(再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこのかぎりではない)
- ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- ニ. 各学年の履修科目数の最低及び最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修しても認定されない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から各学科の定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
ただし、1年次において定められた科目数・単位数を履修できる学科もある。
- ロ. 各学科「宗教学Ⅰ」を1年次「宗教学Ⅱ」を2年次で必修とする。
- ハ. 各学科2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

一般教育科目の卒業所要単位数

学科	分野	人文分野	社会分野	自然分野	計
国文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
英米文学科		16 (4)	8 (2)	4 (1)	28 (7)
地理学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)
歴史学科		16 (4)	12 (3)	8 (2)	36 (9)
社会学科		12 (3)	12 (3)	8 (2)	32 (8)

※ () 内の数字は科目数

一般教育科目の授業科目

学科	分野	人文分野			社会分野			自然分野		
		授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位	授業科目	単位	修得単位
国文学科	宗(1)年次必修 宗(2)年次必修 論哲歴史芸(日本・西洋)	宗(1)年次必修	4	「宗I・教I」を4単位必修 「宗II・教II」を4単位必修 「学宗I」のみ1単位必修 「学宗II」のみ1単位必修 「学宗I」を含む科目選択	法学憲法(法含)	4	2科目必修 28単科必修	自然科学概論	4	1科目必修 4単科必修
		宗(2)年次必修	4		法学憲法(法含)	4		心理学	4	
		宗(1)年次必修	4		経済学	4		人類学	4	
		宗(2)年次必修	4		社会学	4				
英米文学科	宗(1)年次必修 宗(2)年次必修 哲論歴史芸(日本・西洋)	宗(1)年次必修	4	「宗I・教I」を4単位必修 「宗II・教II」を4単位必修 「学宗I」のみ1単位必修 「学宗II」のみ1単位必修 「学宗I」を含む科目選択	法学憲法(法含)	4	2科目必修 28単科必修	自然科学概論	4	1科目必修 4単科必修
		宗(2)年次必修	4		心理学	4				
		宗(1)年次必修	4		社会学	4				
		宗(2)年次必修	4		社会学	4				
地理学科	宗(1)年次必修 宗(2)年次必修 哲文史芸(日本・西洋)	宗(1)年次必修	4	「宗I・教I」を3単位必修 「宗II・教II」を3単位必修 「学宗I」のみ1単位必修 「学宗II」のみ1単位必修 「学宗I」を含む科目選択	法学憲法(法含)	4	3科目必修 12単科必修	数学	4	2科目必修 8単科必修
		宗(2)年次必修	4		社会学	4		物理学	4	
		宗(1)年次必修	4		社会学	4		化学	4	
		宗(2)年次必修	4		社会学	4		生物学	4	
歴史学科	宗(1)年次必修 宗(2)年次必修 哲論文芸(日本・西洋)	宗(1)年次必修	4	「宗I・教I」を4単位必修 「宗II・教II」を4単位必修 「学宗I」のみ1単位必修 「学宗II」のみ1単位必修 「学宗I」を含む科目選択	法学憲法(法含)	4	3科目必修 12単科必修	自然科学概論	4	2科目必修 8単科必修
		宗(2)年次必修	4		社会学	4		地理学	4	
		宗(1)年次必修	4		社会学	4		心理学	4	
		宗(2)年次必修	4		社会学	4		人類学	4	
社会学科	宗(1)年次必修 宗(2)年次必修 文歴史芸(日本・西洋)	宗(1)年次必修	4	「宗I・教I」を3単位必修 「宗II・教II」を3単位必修 「学宗I」のみ1単位必修 「学宗II」のみ1単位必修 「学宗I」を含む科目選択	法学憲法(法含)	4	3科目必修 12単科必修	自然科学概論	4	2科目必修 8単科必修
		宗(2)年次必修	4		政治学	4		生物学	4	
		宗(1)年次必修	4		社会学	4		社会学	4	
		宗(2)年次必修	4		社会学	4		人類学	4	

※ 国文学科の「論理学」は56年度以前入学生は1年次必修とする。

57年度以降入学生は選択必修とする。

※ 「宗教学I」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行なう。

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6カ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2カ国語を履修することになり、その2カ国語を1年次および2年次（英米文学科は3年次）において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

第1 外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4
2 年 次	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4
3 年 次	—	—	1 科目	2	—	—	—	—	—	—

第2 外国語

学 科 年 次	国文学科		英米文学科		地理学科		歴史学科		社会学科	
	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位	科目数	単位
1 年 次	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4	2 科目	4

1年次の履修

6カ国語のうち英語1G・1Rの2科目と入学手続の際に指定した外国語1G・1Rの2科目で4科目8単位を必修する。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数	備考
英語 1G	2		1G・1R 2科目を必修とする。ただし1Gは、英会話または英語LLに代替できる (ただし英米文学科は英会話に代替できない)	LL (ランゲージ・ラボラトリー)
" 1R	2			
英会話	2			
英語 LL	2	視聴覚教材を使用した語学教育		
ドイツ語 1G	2	文 法	5カ国語のうちから入学手続の際指定した1カ国語1G・1Rの2科目を必修すること	
" 1R	2	講 読		
フランス語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
中国語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
スペイン語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		
ロシア語 1G	2	文 法		
" 1R	2	講 読		

※ 英語科目内容

英語 1G：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語 1R：講読を通し内容と文構造の基本を把握する。

※ 「英語1R」の授業は月曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の学生手帳を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2カ国語のうち、いずれかを第1外国語とし2AⅠ・2AⅡの2科目4単位を必修すること。ただし英米文学科は英語を第1外国語とする。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 2 A Ⅰ	2	講 読	中 国 語 2 A Ⅰ	2	講 読
“ 2 A Ⅱ	2	“	“ 2 A Ⅱ	2	“
ド イ ツ 語 2 A Ⅰ	2	“	ス ペ イ ン 語 2 A Ⅰ	2	“
“ 2 A Ⅱ	2	“	“ 2 A Ⅱ	2	“
フ ラ ン ス 語 2 A Ⅰ	2	“	ロ シ ア 語 2 A Ⅰ	2	“
“ 2 A Ⅱ	2	“	“ 2 A Ⅱ	2	“

3年次の履修（英米文学科のみ）

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	履 修 科 目 数
英 語 3 A	2	講 読	3 A を 1 科 目 必 修

※「英語3A」の授業は学生番号によりクラス編成されているので、各自の学生番号に該当するクラスで履修すること。ただし所定のクラスで履修不可能な場合は、担当教員に申し出ること。

外国語科目履修上の注意

- イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下4ケタ）により該当するクラスを履修すること。
- ロ. 1年次履修の外国語（英語と他の1カ国語）の中から第1外国語、第2外国語の別を学生自身が指定し、9月下旬に登録する。したがって1年次生は前期の授業で充分考慮の上登録すること。なお、英米文学科は英語を第1外国語とする。
- ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。
- ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める。
- ホ. 2年次（英米文学科は3年次）までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授業科目	単位	備考
講義	保健体育理論	2	前期または後期
実技	体育実技	2	

- イ. 講義の前期・後期の別は授業時間表で指定する。
- ロ. 講義、実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。
- ハ. 講義、実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。
- ニ. 講義、実技とも月曜日に玉川校舎で授業を行う。

体育実技履修上の注意

イ. 授業について

前期・後期ともそれぞれ履修時間に含まれている数種目の中から希望する種目を選択し受講する。ただし、前期と後期は同一種目を選択することはできない。

(a) 種目選択届

最初の授業時間に、前期・後期ともつぎの履修時間に含まれている数種目の中から、決定するので、必ず出席すること。

(b) 単位履修届

教務部に提出する「単位履修届」の科目名・担任名は授業時間表による科目名・担任名を記入すること。選択した種目名また種目の担任名ではない。

月・1 (禅・仏・国)	月・2 (英・地)	月・3 (歴・社)
陸上競技 ◎森本 サッカー 原山 ソフトボール 太田 テニス 浅野 室内球技 村松 卓球 高橋 トレーニング 武藤 剣道 上山	陸上競技 森本 サッカー ◎原山 ソフトボール 太田 テニス 浅野 室内球技 秋田 トレーニング 武藤 剣道 上山	サッカー 秋田 ソフトボール ◎太田 テニス 浅野 卓球 長浜 室内球技 宮沢 トレーニング 武藤 空手道 高橋

再履修クラス（2年次生以上の再履修者のクラスで授業は本校で行う）

火・3	水・1	水・2
室内球技 ◎宮沢 空手道 大石	室内球技 ◎原山 剣道 上山	室内球技 ◎原山 剣道 上山

※◎は講座主任

ロ. 単位の認定について

1年間の授業を通して2単位を認定する。前期と後期は種目選択の上で便宜上分けられるもので、あくまでも1年間の授業を通して単位を認定する。

ハ. 評価について

週一回の授業を真剣に受講することが、実技の重要な意味であることから、本学においては出席を評価の上で最も優先させている。この基盤の上に立って前期・後期それぞれの種目において行われる実技試験の点数、および平常の授業における態度が加味されて、実技の評価が行われる。

ニ. 校外学習

夏と冬の二回にわたって実施する。参加は希望制であり人数の制限がある。これは単位認定とは直接関係のない保健体育部主催の行事であるが、実技を受講している学生が参加した場合には評価の上で幾分か加味される。

ホ. 見学について

身体の具合が悪い場合は、担任教員にその旨を報告し、授業を真面目に見学すること。

- ※長期見学者：前期または後期をほとんどあるいは全部見学せざるを得ない精神および身体上の故障や病気を持っている場合は長期見学者として取り扱い毎時間の真面目な見学をもって出席に代える。また、実技テストは行わずレポートをもってこれに代える。レポートの課題については担任教員より指示を受けること。

ヘ. 服装・更衣について

種目毎に、それぞれの担任教員の指示に従い、指定された場所以外では着替えないこと。

ト. 盗難・事故・負傷について

- (a) 盗 難：実技の受講日には貴重品は持参しないこと。やむを得ず持参した場合には担任教員に指示を受けること。最近、特に実技の時間を狙った常習者が横行しているので充分注意してほしい。
- (b) 事故・負傷：実技の時間に事故や負傷が発生した場合には直ちに担任教員に報告し適切な指示を受けること。

チ. 掲示板の利用について

実技上の連絡は、玉川校舎事務室前の掲示板および玉川校舎入口の黒板に掲示するので、平常よく見ておくこと。

4. 基礎教育科目（必修）の履修方法

専門教育の基礎となる授業科目で各年次別履修順序は、次表のとおりである。

学科	1 年 次			2 年 次		
	授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学科	基礎国語学	4				
	基礎国文学	4				
	基礎中国文学	4				
英米文学科	英文学概論または米文学概論	4				
	基礎英語ⅠA	2	旧英語演習ⅠA (文法, 作文)	基礎英語ⅡA	2	旧英語演習ⅡA (文法, 作文)
	基礎英語ⅠB (会話)	2	旧英語演習ⅠB (会話)	基礎英語ⅡB (会話)	2	旧英語演習ⅡB (会話)
地理学科	基礎地学 (自然地理学)	4				
	基礎地学 (人文地理学)	4				
歴史学科	基礎歴史学	4				
社会学科	社会学概論	4				
	社会福祉概論	4				
	心理学概論	4				

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目に分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については専門科目全般にわたって充分検討して履修すること。なお一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

専門教育科目の卒業所要単位数

	必修科目	選択科目	卒業論文	計
国文学科	36(12)	28	8	72
英米文学科	A. 58年度入学生適用			
	28(7)	36	8	72
	B. 57年度以前入学生適用			
	24(6)	40	8	72
地理学科	16(6)	48	8	72
歴史学科	32(8)	32	8	72
社会学科	A. 57年度以降入学生適用			
	社 48(12)	16	8	72
	福 48(12)	16	8	72
	心 28(8)	36	8	72
	B. 56年度以前入学生適用			
	社 32(8)	32	8	72
	福 36(9)	28	8	72
	心 38(11)	26	8	72

(注意) イ. ()内の数字は科目数。

ロ. 社会学科福祉コースで、昭和53年度以前入学生は10科目40単位を必修とする。

国文学科

必修科目 (44単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
国文学講読Ⅰ	2		国 語 学 演 習 Ⅰ	2	1 科目 2 単位選択必修 (原則として卒業論文 に関連のある分野の 演習を履修すること)
			国文学演習Ⅰ(上代)	2	
2 年 次 必 修			国文学演習Ⅰ(中古)	2	
国 語 学 概 論	4		国文学演習Ⅰ(中世)	2	
国 文 学 概 論	4		国文学演習Ⅰ(近世)	2	
国文学講読Ⅱ	2		国文学演習Ⅰ(近代)	2	
中国文学講読	2		4 年 次 必 修		
			国 文 学 研 究	4	
3 年 次 必 修			国 文 学 史 Ⅰ	4	1 科目 4 単位選択必修 (3 年次で必修または 選択として履修した 科目以外を履修する)
国文学史 Ⅰ	4	1 科目 4 単位 必 修	国 文 学 史 Ⅱ	4	
国文学史 Ⅱ	4		国 文 学 史 Ⅲ	4	
国文学史 Ⅲ	4		国 文 学 史 Ⅳ	4	
国文学史 Ⅳ	4		国 文 学 史 Ⅴ	4	
国文学史 Ⅴ	4		国 語 学 演 習 Ⅱ	2	1 科目 2 単位選択必修 (卒業論文に関連のあ る分野の演習を履修 すること)
国 語 学 研 究	4	国 文 学 演 習 Ⅱ	2		
国文学講読Ⅲ	2		卒 業 論 文	8	9 頁参照

(注意) 3年次で「国文学演習Ⅰ」を履修した者は原則として4年次も「国文学演習Ⅱ」を、また3年次で「国語学演習Ⅰ」を履修した者は4年次でも「国語学演習Ⅱ」を履修すること。

「国文学史」の講義内容はⅠ(上代)・Ⅱ(中古)・Ⅲ(中世)・Ⅳ(近世)・Ⅴ(近代)とする。

選択科目（28単位以上）（2年次以降の履修科目）

授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
言語学概論	4		国文学特講Ⅱ	4	
国語史	4	休講 } 隔年開講	国文学特講Ⅲ	4	
国語学史	4		国文学特講Ⅳ	4	
上代文学	4		中国文学	4	
中古文学	4		東洋思想研究	4	
中世文学	4		中国文学演習	4	
近世文学	4		現代美術	4	
近代文学	4		書道実習Ⅰ	4	
英米文化	4	旧外国文学	書道実習Ⅱ	4	
文学概論	4		美術史概説	4	
中国文学概論	4		美術史	2	
有職故実	4		国文学史Ⅰ	4	選択科目として履修を希望する者は必修とした科目以外を3年次または4年次で履修すること
書道史	2		国文学史Ⅱ	4	
仏教概論	4		国文学史Ⅲ	4	
日本史概説Ⅰ	4	古代, 中世	国文学史Ⅳ	4	
日本史概説Ⅱ	4	近世, 近代	国文学史Ⅴ	4	
日本文化史Ⅰ	4	休講 } 隔年開講	編集実務	2	
日本文化史Ⅱ	4		日本民俗学	4	
国文学特講Ⅰ	4				

(注意) 「国文学史」の講義内容はⅠ(上代)・Ⅱ(中古)・Ⅲ(中世)・Ⅳ(近世)・Ⅴ(近代)とする。

「国文学特講」のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは時代・履修順序等との関係はない。

英米文学科

必修科目

A. 58年度入学生適用 (36単位)

2年次必修			4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		卒業論文	8	9頁参照
英作文Ⅰ	4		2年次または3年次必修		
3年次必修			文学史 (英文学史Ⅰ) (英文学史Ⅱ) 米文学史	8	2年次1科目 3年次1科目 2科目選択 必修
音声学	4				
英語史	4				
シェイクスピア	4				

※ 「文学史」は2科目選択必修とし、残り1科目を専門選択科目として履修できない。

B. 57年度以前入学生適用 (32単位)

2年次必修			2年次または3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
英語学概論	4		文学史 (英文学史Ⅰ) (英文学史Ⅱ) 米文学史	4	1科目選択 必修
3年次必修					
音声学	4	旧 英語学研究	3年次または4年次必修		
英語史	4		批評論研究	4	
4年次必修			シェイクスピア	4	
卒業論文	8	9頁参照			

選択科目

A. 58年度入学生適用 (36単位以上)

B. 57年度以前入学生適用 (40単位以上)

授業科目	単位	履修年次	備考	授業科目	単位	履修年次	備考
英文学史Ⅰ	4	2・3・4	※イ 必修とし た科目を 外すこと を以て修 得するこ と	英文学演習Ⅰ (中世)	4	3・4	
英文学史Ⅱ	4	2・3・4		英文学演習Ⅱ (英文学16c. 17c.)	4	3・4	※ホ
米文学史	4	2・3・4		英文学演習Ⅳ (英文学18c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅰ (英文学16, 17c.)	4	3・4		英文学演習Ⅴ (詩19, 20c.)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅱ (英文学18c.)	4	3・4		英文学演習Ⅵ (小説Ⅰ19c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅲ (詩19, 20c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅶ (小説Ⅱ20c.)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅳ (小説Ⅰ19c.)	4	2・3・4		英文学演習Ⅷ (批評19, 20c.)	4	3・4	
英文学特講Ⅴ (小説Ⅱ20c.)	4	2・3・4		米文学演習Ⅰ (詩)	4	2・3・4	
英文学特講Ⅵ (批評19, 20c.)	4	3・4		米文学演習Ⅱ (小説Ⅰ)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅰ (詩)	4	2・3・4		米文学演習Ⅲ (小説Ⅱ)	4	3・4	
米文学特講Ⅱ (小説Ⅰ)	4	2・3・4		米文学演習Ⅳ (小説Ⅲ)	4	2・3・4	
米文学特講Ⅲ (小説Ⅱ)	4	2・3・4		米文学演習Ⅴ (批評)	4	3・4	
米文学特講Ⅳ (小説Ⅲ)	4	2・3・4		英米演劇演習	4	2・3・4	※へ
米文学特講Ⅴ (批評)	4	3・4		時事英語	4	2・3・4	旧英米 時文研究
英米演劇特講	4	2・3・4	※ロ	商業英語	4	3・4	
英米語学演習 (英語学)	4	3・4		ラテン語特講	4	2・3・4	
英米語学演習 (英語史)	4	3・4		英米文化	4	2・3・4	旧外国文学
英米語学演習 (英文法)	4	3・4		日本文化史Ⅰ	4	2・3・4	隔年開講 休講
英米語学演習 (英作文)	4	3・4	※ハ	日本文化史Ⅱ	4	2・3・4	
英米語学演習 (英作文Ⅱ)	4	3・4	※ニ	現代美術	4	2・3・4	
英米語学演習 (英会話)	2	3・4					

※イ 57年度以前入学生適用

※ロ 57年度以前入学生で「英文学特講Ⅶ(演劇19, 20c.)」・「米文学特講Ⅵ(演劇)」をいづれか修得した者は、「英米演劇特講」を履修できない。

※ハ 57年度以前入学生適用

※ニ 58年度入学生適用

※ホ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅱ（英文学16c.）」・「英文学演習Ⅲ（英文学17c.）」をいずれか修得した者は、「英文学演習Ⅱ（英文学16c.,17c.）」を履修できない。

※へ 57年度以前入学生で「英文学演習Ⅸ（演劇19,20c.）」・「米文学演習Ⅵ（演劇）」をいずれか修得した者は、「英米演劇演習」を履修できない。

（注意） 同一科目は再度履修しても単位にはならない。

◇演習科目のとりかた

I(a) 2, 3, 4年次に演習1科目（4単位）ずつ、あわせて3科目（12単位）を極力履修すること。

(b) 2年次で履修しうる演習科目は1科目とする。

(c) 3年次で履修しうる演習科目は3科目以内とする。

(d) 4年次で履修しうる演習科目は2科目以内とする。

II(a) 各演習科目とも先着約50名で締切る。なお、教務部に「単位履修届」を提出する前に、受講希望の科目担任の先生に本人が直接届出て「単位履修届」に捺印を受けること。

(b) 担任の先生に届出る日・時・場所については教務部の掲示板に掲示するので注意すること。

地理学科

必修科目（24単位）

2年次必修		3年次必修		4年次必修	
授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
自然地理学実習 (地図学実習を含む)	2	地理学総論	4	地理学演習	4
人文地理学実習	2	野外巡検Ⅱ	2	卒業論文 (9頁参照)	8
野外巡検Ⅰ	2				

※ 「地理学研究法および地理学史」を「地理学総論」に名称変更する。

選択科目（48単位以上）

2 年 次 選 択			3 年 次 選 択		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
日 本 地 誌 I	4		土 壌 地 理 学	4	
地 図 学	4	旧 地図学概説	気 候 学	4	
経 済 地 理 学 I	4		海 洋 学 及 陸 水 学	4	
郷 土 地 理 学	4		外 国 地 誌 II	4	
地 形 学 I	4		地 形 学 II	4	
集 落 地 理 学	4		3・4 年 次 選 択		
外 国 地 誌 I	4		計 量 地 理 学	4	
交 通 地 理 学	4		日 本 地 誌 III	4	
3 年 次 選 択			外 国 地 誌 III	4	
地 球 物 理 学	4		文 化 地 理 学	4	
歴 史 地 理 学	4		都 市 地 理 学	4	
日 本 地 誌 II	4		空 中 写 真 判 読 法 及 測 量 学	4	
原 書 講 読	4		応 用 地 理 学 I	4	
人 口 地 理 学	4		応 用 地 理 学 II	4	
経 済 地 理 学 II	4		地 理 学 特 講 I	2	
地 質 学	4				

(注意) (1) 上記のように学年次別に選択科目を分けているが、内容からみて上級学年が下級学年の科目を履修するのはさしつかえない。しかし下級学年が上級学年の科目を履修することはできない。

(2) 「地理学演習」および「野外巡検（I・II）」の必修科目の履修にあたっては、地理学科研究室の指示に必ず従うこと。詳細は適時教務部および地理学教室の掲示板に掲示するので注意すること。

◎測量士補資格について

地理学科の学生で、地図学、空中写真判読法および測量学、自然地理学実習、地理学演習を修得し、さらに地形学、地質学、地球物理学、応用地理学I、IIのうち2科目を修得した者で、測量士補の資格を希望する者は、卒業後、大学が国土地理院長に測量士補の資格が得られるよう推薦する。

また、さらに卒業後1年以上測量に関する実務を経験し、その資格を証する書類を申請登録すれば、測量士の資格が得られる。

歴史学科（2年次の秋頃に各自専攻コースを届出ること）

必修科目（40単位）（2年次以降の履修科目）

○日本史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(日本史)	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
日 本 史 学 史	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(日本史)	4	演習Ⅰ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(日本史)	4		卒 業 論 文	8	9頁参照

○東洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(東洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(東洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替できる	考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	2科目8 単位選択 必修
東 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(東洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(東洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替できる	卒 業 論 文	8	

○西洋史専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(西洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(西洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	考古学概説Ⅱ(外国)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
西 洋 史 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(西洋史)	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
演 習 Ⅱ(西洋史)	4	演習Ⅱ(考 古学)で代 替えできる	卒 業 論 文	8	

○考古学専攻

56年度以降入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 2科目8 単位選択 必修
考 古 学 史	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
考古学概説Ⅰ(日本)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
考古学概説Ⅱ(外国)	4		東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(考古学)	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
演 習 Ⅱ(考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
			卒 業 論 文	8	9頁参照

55年度以前入学生適用

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
史 学 概 論	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	} 3科目12 単位選択 必修
考古学概説Ⅰ(日本)	4		日本史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
演 習 Ⅰ(考古学)	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
演 習 Ⅱ(考古学)	4	他の専攻の 演習Ⅱで代 替えできる	東洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
日 本 史 学 史	4	} 1科目4 単位選択 必修	西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
東 洋 史 学 史	4		西洋史概説Ⅱ(近世 近代)	4	
西 洋 史 学 史	4		卒 業 論 文	8	

選択科目（32単位以上）（2年次以降の履修科目）

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
日本史各説Ⅰ	4	休講	西洋史特講Ⅰ	4	休講 ⅡとⅣ・ⅢとⅤは 隔年開講	
日本史各説Ⅱ	4		西洋史特講Ⅱ	4		
日本史各説Ⅲ	4		西洋史特講Ⅲ	4		
日本史各説Ⅳ	4		西洋史特講Ⅳ	4		
東洋史各説Ⅰ	4		西洋史特講Ⅴ	4		
東洋史各説Ⅱ	4		西洋各国史Ⅰ	4		
東洋史各説Ⅲ	4		西洋各国史Ⅱ	4		
西洋史各説Ⅰ	4		西洋各国史Ⅲ	4		
西洋史各説Ⅱ	4		西洋各国史Ⅳ	4		
西洋史各説Ⅲ	4		考古学特講Ⅰ	4	休講 ⅢとⅣは 隔年開講	
考古学各説Ⅰ	4		考古学特講Ⅱ	4		
考古学各説Ⅱ	4		考古学特講Ⅲ	4		
日本史特講Ⅰ(古代)	4		考古学特講Ⅳ	4		
日本史特講Ⅱ(中世)	4		古文書学	4		
日本史特講Ⅲ(中世)	4		古文書講読Ⅰ	4		
日本史特講Ⅳ(近世)	4		古文書講読Ⅱ	4		
日本史特講Ⅴ(近世)	4		日本仏教史Ⅰ	4	休講 Ⅰ隔年開講 とⅢは	
日本史特講Ⅵ(近代)	4		日本仏教史Ⅱ	4		
日本史特講Ⅶ(近代)	4		日本仏教史Ⅲ	4		
東洋史特講Ⅰ (中国周辺史)	4	休講 Ⅵは隔年開講	日本文化史Ⅰ	4	休講 隔年開講	
東洋史特講Ⅱ (近世・近代史)	4		日本文化史Ⅱ	4		
東洋史特講Ⅲ (中世史)	4		西洋文化史Ⅰ	4	休講 Ⅱ隔年開講 とⅢは	
東洋史特講Ⅳ (近代・現代史)	4		西洋文化史Ⅱ	4		
東洋史特講Ⅴ (西・中央アジア史)	4		西洋文化史Ⅲ	4		
東洋史特講Ⅵ (中世史)	4			考古学実習Ⅰ(写真)	4	
東洋史特講Ⅶ (古代史)	4			考古学実習Ⅱ(記録)	4	

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
考古学実習Ⅲ(測量)	4		西 域 美 術 史	4	
考古学実習Ⅳ(調査)	4		美 術 史 概 説	4	
考 古 発 掘 実 習	2		演 習 Ⅰ	4	} (注)
有 職 故 実	4		演 習 Ⅱ	4	
中 国 歴 史 文 学	4		日本史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
日 本 民 俗 学	4		日本史概説Ⅱ(近 近代)	4	
歴 史 地 理 学	4		東洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
人 文 地 理 学 概 説	4		東洋史概説Ⅱ(近 近代)	4	
地 誌 学	4		西洋史概説Ⅰ(古代 中世)	4	
哲 学 史	4		西洋史概説Ⅱ(近 近代)	4	
歴 史 哲 学	4		考古学概説Ⅰ(日本)	4	
仏 教 美 術	4		考古学概説Ⅱ(外国)	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※55年度以前入学生は「考古学概説Ⅱ(外国)」を履修することはできない。

社会学科（1年次の秋頃各自専攻コースを届出ること）

（1）社会学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用（56単位）

2年次必修			2・3・4年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会統計学	4		マスコミュニケーション	4	休講 5科目20 単位選択 必修
社会学史	4		産業社会学	4	
社会学方法論	4		都市社会学	4	
3年次必修			農村社会学	4	
社会調査	4		家族社会学	4	
社会調査実習	4		法社会学	4	
演習Ⅰ	4	社会	宗教社会学	4	
4年次必修			社会心理学	4	
演習Ⅱ	4	社会	社会病理学	4	
卒業論文	8	9頁参照	外書講読Ⅰ	4	
			外書講読Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅰ	4	
			社会学特講Ⅱ	4	
			社会学特講Ⅲ	4	

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
マスコミュニケーション	4	休講 (注)	社会学原論	4	
産業社会学	4		図書館学Ⅰ	4	
都市社会学	4		図書館学Ⅱ	4	
農村社会学	4		社会福祉方法総論	4	
家族社会学	4		社会福祉法制	4	
法社会学	4		社会保障概論	4	
宗教社会学	4		老人福祉論	4	
社会心理学	4		児童福祉論	4	
社会病理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
社会学特講Ⅰ	4		グループ・ダイナミックス	4	
社会学特講Ⅱ	4		民法	4	
社会学特講Ⅲ	4		労働法	4	
				行政法	4
			経済原論	4	
			社会政策	4	

(注意) 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（40単位）

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		演 習 I	4	社会
社 会 学 原 論	4		4 年 次 必 修		
社 会 統 計 学	4		社 会 政 策	4	
宗 教 社 会 学	4		演 習 II	4	社会
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	9 頁 参 照
社 会 調 査	4				

（注意）「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (32単位以上)

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会学方法論	4		社会学特講Ⅰ	4	旧社会学特講
マスコミュニケーション	4		社会学特講Ⅱ	4	旧ジャーナリズム研究
産業社会学	4		社会学特講Ⅲ	4	旧労務管理
都市社会学	4		社会福祉法制	4	
農村社会学	4	休講	社会保障概論	4	
家族社会学	4		老人福祉論	4	
法社会学	4		児童福祉論	4	
社会心理学	4		地域福祉論	4	
外書講読Ⅰ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
外書講読Ⅱ	4		産業心理学	4	
2・3・4年次選択			社会福祉方法総論	4	
図書館学Ⅰ	4		青少年問題研究	4	60年度より廃講
図書館学Ⅱ	4		教育社会学	4	
グループ・ダイナミックス	4	旧集団理論	社会教育概論	4	
行政法	4		社会教育方法論	4	
民法	4		3・4年次選択		
労働法	4		社会病理学	4	
経済原論	4		社会調査実習	4	旧社会調査実習Ⅰ

1. 名称変更科目

- 新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に取得している場合、新名称科目は履修できません。
- 成績表は57年度発表分では旧名称で、58年度からは新名称で打出されます。
選択科目のみ

新名称	旧名称
グループ・ダイナミックス	—— 集団理論
社会調査実習	—— 社会調査実習Ⅰ
社会学特講Ⅰ	—— 社会学特講

2. 廃講科目

- 57年度で打ち切りとなる科目で、今後の履修はできません。
- 成績表は、58年度より既取得科目のみ打出されます。
選択科目のみ

グループ・ワーク	社会福祉特講Ⅰ	社会福祉特講Ⅱ
社会福祉特講Ⅲ	社会調査実習Ⅱ	禅心理学
新聞学	哲学史	社会福祉概論
産業福祉論		

例外 ジャーナリズム研究・労務管理は58・59年度は名称変更（社会学特講ⅡとⅢへ）、60年度より廃講科目となります。

今後の履修はできません。成績表は既取得者のみ打出されます。

3. 新設科目

選択科目のみ

社会福祉法制	社会保障概論	老人福祉論
児童福祉論	基礎心理学Ⅰ	産業心理学
社会福祉方法総論		

4. 注意事項

- 1) 上記 1. 2. の科目以外は従来どおり履修して下さい。
- 2) 新カリキュラムでは、各コース別に科目コードを指定しています。他のコースの専門科目は一切取れません。

必修科目コード	255101～255199
選択科目コード	255501～255599

(2) 社会福祉コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (56単位)

2年次必修			2・3・4年次必修			
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	
社会保障概論	4		A群	公的扶助論	4	A群とB群より、それぞれ3科目ずつ計6科目、24単位が選択必修
社会福祉法制	4			障害福祉論	4	
社会福祉方法総論	4			老人福祉論	4	
3年次必修				児童福祉論	4	
社会福祉実習 I	4			母子福祉論	4	
演習 I	4	福祉		医療社会事業論	4	
4年次必修			B群	地域福祉論	4	
演習 II	4	福祉		社会福祉事業発達史	4	
卒業論文	8	9頁参照		社会福祉管理運営論	4	
				福祉外書講読	4	
				リハビリテーション論	4	

※「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（16単位以上）

2・3・4年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
公的扶助論	4	(注)	宗教社会学	4	
障害福祉論	4		産業社会学	4	
老人福祉論	4		都市社会学	4	
児童福祉論	4		農村社会学	4	休講
母子福祉論	4		家族社会学	4	
医療社会事業論	4		法社会学	4	
地域福祉論	4		社会病理学	4	
社会福祉事業発達史	4		異常児教育原論	4	
社会福祉管理運営論	4		異常児教育方法論	4	
福祉外書講読	4		異常児病理	4	休講
リハビリテーション論	4		異常児心理	4	休講
ケースワーク論	4		図書館学Ⅰ	4	
グループワーク論	4		図書館学Ⅱ	4	
海外社会福祉論	4		社会政策	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4		青少年問題研究	4	
社会福祉学特講Ⅱ	4		行政法	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4	労働法	4		
基礎心理学Ⅰ	4	民法	4		
基礎心理学Ⅱ	4	経済原論	4		
社会心理学	4	4年次選択			
グループ・ダイナミックス	4	社会福祉実習Ⅱ	4		

※ 選択科目として履修を希望する者は必修科目として履修した科目以外を履修すること。

※ 社会福祉実習Ⅱを履修する者は社会福祉実習Ⅰ取得者に限る。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用（44単位）

※ ただし53年度以前入学生は48単位必修とする。

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
社 会 学 史	4		社会福祉実習Ⅰ	4	旧社会福祉実習
社会学原論	4		演 習Ⅰ	4	福祉
社会福祉法制	4		4 年 次 必 修		
社会福祉概論	4	53年度以前 の入学生の み必修	社会政策	4	
			演 習Ⅱ	4	福祉
3 年 次 必 修			卒 業 論 文	8	9 頁参照
社会調査	4				
社会福祉事業発達史	4	旧社会福祉 事業史			

(注意) ※ 「社会福祉概論」は54年度以降入学生より基礎教育科目とする。

※ 「演習」は3年次で履修した先生のものを、卒業論文の指導を受けることを前提に4年次も継続的に履修すること。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用（28単位以上）

※ ただし53年度以前入学生は24単位以上とする。

2・3年次選択			2・3・4年次選択		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
社会保障概論	4	旧社会保障論	グループ・ダイナミックス	4	
児童福祉論	4		宗教社会学	4	
老人福祉論	4		産業社会学	4	
地域福祉論	4		都市社会学	4	
ケースワーク論	4	旧ケース・ワーク論	農村社会学	4	休講
グループワーク論	4	旧グループ・ワーク	法社会学	4	
基礎心理学Ⅱ	4	旧精神発達学	図書館学Ⅰ	4	
社会心理学	4		図書館学Ⅱ	4	
家族社会学	4		民法	4	
異常児教育原論	4		経済原論	4	
2・3・4年次選択			行政法	4	
公的扶助論	4		労働法	4	
母子福祉論	4		青少年問題研究	4	
医療社会事業論	4	旧医療社会事業	異常児病理	4	旧異常児病理・保健 休講
リハビリテーション論	4		異常児心理	4	休講
福祉外書講読	4	旧外書講読Ⅲ	障害福祉論	4	
海外社会福祉論	4		教育社会学	4	60年度より 5)廃講
社会福祉方法総論	4		社会教育概論	4	
社会福祉管理運営論	4		社会教育方法論	4	
社会福祉学特講Ⅰ	4	旧社会福祉特講Ⅰ	3・4年次選択		
社会福祉学特講Ⅱ	4	旧社会福祉特講Ⅱ	異常児教育方法論	4	
社会福祉学特講Ⅲ	4	旧社会福祉特講Ⅲ	社会病理学	4	
基礎心理学Ⅰ	4				

1. 名称変更科目

- 新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に取得している場合、新名称科目は履修できません。
- 成績表は、57年度発表分では旧名称で、58年度からは新名称で打出されます。

必修科目		選択科目	
新名称	旧名称	新名称	旧名称
社会福祉事業発達史	—社会福祉事業史	社会保障概論	—社会保障論
社会福祉実習Ⅰ	—社会福祉実習	ケースワーク論	—ケース・ワーク論
		グループワーク論	—グループ・ワーク
		基礎心理学Ⅱ	—精神発達学
		医療社会事業論	—医療社会事業
		福祉外書講読	—外書講読Ⅲ
		社会福祉学特講Ⅰ	—社会福祉特講Ⅰ
		社会福祉学特講Ⅱ	—社会福祉特講Ⅱ
		社会福祉学特講Ⅲ	—社会福祉特講Ⅲ
		異常児病理	—異常児病理・保健

2. 廃講科目

- 57年度で打ち切りとなる科目で、今後の履修はできません。
- 成績表は、58年度より既取得科目のみ打出されます。

選択科目のみ

精神医学	養護原理	外書講読Ⅰ
外書講読Ⅱ	社会調査実習Ⅰ	社会調査実習Ⅱ
精神測定法	カウンセリング	ジャーナリズム研究
新聞学	労務管理	禅心理学
哲学史	産業福祉論	

3. 新設科目

選択科目のみ

母子福祉論	リハビリテーション論	海外社会福祉論
社会福祉方法総論	社会福祉管理運営論	基礎心理学Ⅰ
グループ・ダイナミックス	宗教社会学	法社会学

4. 注意事項

- 1) 上記 1. 2. の科目以外は従来どおり履修して下さい。
- 2) 新カリキュラムでは、各コース別に科目コードを指定しています。他のコースの専門科目は一切取れません。

必修科目コード	255201～255299
選択科目コード	255601～255699

(3) 心理学コース

必修科目

A. 57年度以降入学生適用 (36単位)

2 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
心 理 学 史	4		心理学研究Ⅲ(実習)	2	1 科 目 2 単 位 選 択 必 修
心 理 統 計 学	4		心理学研究Ⅳ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2		心理学研究Ⅴ(実習)	2	
基礎心理学Ⅰ	4	1 科 目 4 単 位 選 択 必 修	心理学研究Ⅵ(実習)	2	1 科 目 4 単 位 選 択 2 年 次 で 必 修 ま た は し 選 択 履 修 し た 科 目 以 外 を 履 修 す る こ と
基礎心理学Ⅱ	4		基礎心理学Ⅰ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		基礎心理学Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅳ	4		基礎心理学Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅴ	4		基礎心理学Ⅳ	4	
3 年 次 必 修			基礎心理学Ⅴ	4	
心理学研究法	4		4 年 次 必 修		
心理学研究Ⅰ(実習)	2		演 習	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		卒 業 論 文	8	9 頁 参 照

(注意) 基礎心理学Ⅰ～Ⅴの内容については講義内容欄を参照のこと。

選択科目

A. 57年度以降入学生適用（36単位以上）（2年次以降の履修科目）

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
基礎心理学Ⅰ	4	必修として履修した科目以外を履修すること	心理学特講Ⅱ	4	
基礎心理学Ⅱ	4		心理学特講Ⅲ	4	
基礎心理学Ⅲ	4		精神医学	4	
基礎心理学Ⅳ	4		精神病理学	4	休講
基礎心理学Ⅴ	4		心身医学	4	
心理学研究Ⅰ(実習)	2	3・4年次選択 3年次で必修として履修した科目外を履修すること	宗教社会学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		産業社会学	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		家族社会学	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		社会病理学	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		社会福祉方法総論	4	
生理心理学	4		障害福祉論	4	
児童心理学	4		老人福祉論	4	
産業心理学	4		児童福祉論	4	
グループ・ダイナミックス	4		民法	4	
カウンセリング	4		経済原論	4	
心理検査法	4		行政法	4	
禅心理学	4		労働法	4	
心理学特講Ⅰ	4				

(注意) 2年次における基礎心理学Ⅰ～Ⅴの選択科目としての履修は、3科目以内とする。

必修科目

B. 56年度以前入学生適用 (46単位)

2年次必修			3年次必修		
授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
基礎心理学Ⅰ	4	旧人格心理学	心理学研究Ⅳ(実習)	2	旧心理学実験演習(上級) 1科目2単位 選択必修
グループ・ダイナミックス	4	旧集団理論	心理学研究Ⅴ(実習)	2	
精神医学	4		心理学研究Ⅵ(実習)	2	
心理学実験(実習)	2	旧心理学実験演習(初級)	心理学特講Ⅰ	4	旧臨床心理学Ⅱ(方法)
			心理統計学	4	旧精神測定法
3年次必修			4年次必修		
基礎心理学Ⅲ	4	旧学習行動理論	心理検査法	2	旧臨床実習
基礎心理学Ⅴ	4	旧臨床心理学Ⅰ(理論)	演習	4	
心理学研究Ⅰ(実習)	2		卒業論文	8	9頁参照
心理学研究Ⅱ(実習)	2				
心理学研究Ⅲ(実習)	2				

※ 「心理学実験演習(上級)」を既に修得している場合は、成績表には「心理学研究Ⅰ(実習)」として記載する。

選択科目

B. 56年度以前入学生適用 (26単位以上)

(2年次以降の履修科目)

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
基礎心理学Ⅱ	4	旧精神発達学	産業社会学	4	
基礎心理学Ⅳ	4	旧社会心理学	家族社会学	4	
心理学研究Ⅰ(実習)	2	※3・4年次選択 旧心理学実験演習(上級) 3年次で必修とした科目外を履修すること	社会病理学	4	
心理学研究Ⅱ(実習)	2		マスコミュニケーション	4	
心理学研究Ⅲ(実習)	2		社会福祉方法総論	4	
心理学研究Ⅳ(実習)	2		障害福祉論	4	
心理学研究Ⅴ(実習)	2		老人福祉論	4	
心理学研究Ⅵ(実習)	2		児童福祉論	4	
生理心理学	4	旧精神生理学	行政法	4	
児童心理学	4		民法	4	
産業心理学	4		労働法	4	
カウンセリング	4		経済原論	4	
禅心理学	4		図書館学Ⅰ	4	60年度より廃講
心理学特講Ⅱ	4		青少年問題研究	4	
心理学特講Ⅲ	4		教育社会学	4	
精神病理学	4	休講	社会教育概論	4	
心身医学	4	旧精神身体医学	社会教育方法論	4	
宗教社会学	4				

※ 「心理学実験演習(上級)」を既に修得した者は、「心理学研究Ⅰ(実習)」は履修できない。

1. 名称変更科目

- 新・旧科目とも同一科目です。旧名称科目を既に取得している場合、新名称科目は履修できません。
- 成績表は57年度発表分では旧名称で、58年度からは新名称で打出されます。

必修科目		選択科目	
新名称	旧名称	新名称	旧名称
基礎心理学Ⅰ	一人格心理学	基礎心理学Ⅱ	精神発達学
グループ・ダイナミックス	集団理論	生理心理学	精神生理学
心理学実験(実習)	心理学実験演習(初級)	心身医学	精神身体医学
心理統計学	精神測定法	基礎心理学Ⅳ	社会心理学
基礎心理学Ⅲ	学習行動理論		
基礎心理学Ⅴ	臨床心理学Ⅰ(理論)		
心理学特講Ⅰ	臨床心理学Ⅱ(方法)		
心理検査法	臨床実習		

例外 必修科目の旧、心理学実験演習(上級)は既取得者のみ、新、心理学研究Ⅰ(実習)に名称変更されます。未取得者は、新名称の心理学研究Ⅰ～Ⅵ(実習)を履修して下さい。

2. 廃講科目

- 57年度で打ち切りとなる科目で、今後の履修はできません。
- 成績表は、58年度より既取得科目のみ打出されます。

選択科目のみ

異常児教育原論	養護原理	医療社会事業	ケース・ワーク論
グループ・ワーク	社会調査	異常児教育方法論	社会政策
外書講読Ⅳ	哲学史	ジャーナリズム研究	新聞学
労務管理	深層心理学史	図書館学Ⅱ	社会福祉概論
異常児病理・保健	異常児心理	産業福祉論	

3. 新設科目

選択科目のみ

心理学研究Ⅰ(実習)	心理学研究Ⅱ(実習)	心理学研究Ⅲ(実習)
心理学研究Ⅳ(実習)	心理学研究Ⅴ(実習)	心理学研究Ⅵ(実習)
児童心理学	産業心理学	心理学特講Ⅱ
心理学特講Ⅲ	宗教社会学	産業社会学
マスコミュニケーション	社会福祉方法総論	

4. 注意事項

- 1) 上記の 1. 2. 科目以外は従来どおり履修して下さい。
- 2) 新カリキュラムでは、各コース別に科目コードを指定しています。他のコースの専門科目は一切取れません。

必修科目コード	255301～255399
選択科目コード	255701～255799

6. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することが出来るが卒業に必要な単位に含めることはできない。

授 業 科 目	単 位	備 考	授 業 科 目	単 位	備 考
ドイツ語 F	2		哲学特講 I, II	4	
フランス語 F	2		宗 教 人 類 学	4	
中 国 語 F	2		民 間 信 仰 論	4	
スペイン語 F	2		日本宗教文化史	4	
ロシア語 F	2		民衆宗教成立史	4	
日 本 語 F	2	(初級・中級)	歴 史 哲 学	4	歴史学科を除く
ドイツ語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 民 俗 学	4	国文, 歴史学科を除く
フランス語 FLL	2	(初級・中級)	美 術 史 概 説	4	国文, 歴史学科を除く
中 国 語 FLL	2	(初級・中級)	東 洋 思 想 研 究	4	国文学科を除く
スペイン語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 仏 教 史	4	歴史学科を除く
ロシア語 FLL	2	(初級・中級)	日 本 文 化 史	4	地理, 社会科学科のみ
宗教学特講 I, II, III	4				

- ※ 日本語Fは留学生対象の科目で1年次生より履修できる
- ※ 歴史哲学は歴史思想史の名称変更
- ※ 民衆宗教成立史は民衆仏教成立史の名称変更

7. 再履修科目の履修方法

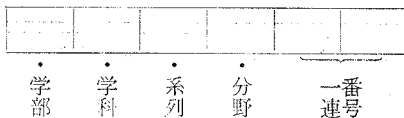
- イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を、翌年度に再度履修することをいう。この場合授業科目名が同じであれば担任教員に変更があっても同一科目の再履修となる。
- ロ. 翌年度に再履修しないで翌々年度以降に履修する場合は、新履修とみなして制限科目数内で履修しなければならない。（休学の場合も同様）
- ハ. 再履修の科目は、新履修の授業科目と同時に届出なければならない。
- ニ. 外国語・体育実技・保健体育理論および宗教学Iを再履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、留年者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。
- ホ. 1年次生は再履修クラスを履修することはできない。

※コード番号について

1. 授業科目コードの設定方法

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分



(a) 学部, 学科番号は学生番号欄での説明のとおり

(b) 系列, 分野区分について

授業科目の区分	系列番号	分野番号
一般教育科目	0	
人文分野		1(必修), 2(選択)
社会分野		3
自然分野		4
基礎教育科目	1	2
外国語科目	2	
第1外国語		
第2外国語		
保健体育科目	4	
体育実技		1
保健体育理論		2
専門教育科目	5	
必修科目		1, 2, 3
選択科目		5, 6, 7, 8
随意科目	7	
再履修科目	8	
課程・講座科目	9	
必修科目		1
選択科目		2
教科科目		3, 4, 5, 6, 7, 8

2. 学生番号について

学生番号の8桁の数字は次の意味を持たせてある。

イ. 学生番号区分

・ 入学 年度 (西暦)	・ 学籍 異動	・ 学 部	・ 学 科	一連番号			

(例) 正規学生番号

3	0	2	1	0	0	0	1
・ 83 年 入 学	・ 事 故 な し	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(1番)			

ロ. 学籍異動番号について

- 0—正規の学生
- 1—留 年
- 2—転部科

- 3—編 入
- 4—留年をして転部科
転部科, 編入をして留年

(例Ⅰ) 留年学生番号

2	1	2	1	0	0	1	1
・ 82 年 入 学	・ 留 年	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(11番) (留年のつど変わる)			

(例Ⅱ) 編入学生番号(58年度3年編入)

1	3	2	1	0	0	2	2
・ 履 適 修 用 要 年 項 度 (81)	・ 編 入	・ 文 学 部	・ 国 文 学 科	一連番号(22番)			

3. 学部・学科の番号表

学部・学科	学部番号	学科番号	学部・学科	学部番号	学科番号
仏教学部	1		商学科		2
禅学科		1	法学部	4	
仏教学科		2	法律学科		1
文学部	2		政治学科		2
国文学科		1	経営学部	5	
英米文学科		2	経営学科		1
地理学科		3	短期大学	8	
歴史学科		4	国文科		1
社会学科		5	英文科		2
経済学部	3		放射線科		3
経済学科		1			

Ⅳ 履修科目の登録(履修届)とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科、学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び、所定の「単位履修届」用紙に必要事項を記入し届出ることにより、通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数は次表の通りとする。

	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1年次	15	—
2年次	14 科目 以内	17 科目 以内
3年次	14 科目 以内	17 科目 以内
4年次	1 科目 以上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および随意科目は上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし、最高制限を設けないが、卒業単位および授業出席に充分ゆとりのある履修をすること。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し、学生証提示の上提出すること。

（提出しない場合は学業の意志のないものとして処理する。なお指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口相談すること）

ロ. 履修届の日時、場所等についての詳細は原則として新年度成績発表前に教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし課程・講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが、その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講、受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 「単位履修届」用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

	月 曜 日			
	科目名	科目コード	担任	担任コード
一時間	独 語 1 G	312201	百 済	879
	~~~~~			
二時間	保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	保健体育理論(後)	314201		622
	~~~~~			
三時間	宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	~~~~~			
四時間	論 理 学	310203	国 嶋	429
	自然科学概論	310401	大 森	156
五時間	体 育 実 技	314101	大石(武)	141
	~~~~~			

正しい記入例

曜日	時限	再履	科目名	科目コード	担任	担任コード
(1)	1		独 語 1 G	312201	百 済	879
	2		保健体育理論(前)	314201	長 浜	993
	3		宗 教 学 I	310101	平井(俊)	735
	4		論 理 学	310203	国 嶋	429
	5		体 育 実 技	314101	大石(武)	141

- 楷書体で正確に記入すること。
- 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。
- 授業時間表のとおり記入すること。
- 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、上に前期終了科目・下に後期終了科目を記入すること。
- 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。
- 履修届はコンピューターで処理しているため、下記の場合、登録が無効となるので注意すること。
 - イ. 科目名・科目コード・担任名・担任コードが一致しない場合
 - ロ. 時限を誤って記入した場合
 - ハ. 間違い易い数字で記入した場合(例, 0と6・1と7)
 - ニ. その他, 不明瞭に記入した場合
- 体育実技の記入方法は、時間表に載っている、科目コード・担任コードを正しく記入すること。
- 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。
- 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、課程・講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

（国文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎国語学，基礎国文学，基礎中国文学（必修）	3
5	専門教育科目	国文学講読Ⅰ（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 社会分野 自然分野 開講科目の中から計4科目選択必修 （不足単位は2年次で履修）	4
1年次履修制限科目数			15

（英米文学科）

順序	授業区分	授 業 科 目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語，第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期），体育実技（必修）	2
4	基礎教育科目	英または米文学概論，基礎英語ⅠA，ⅠB（必修）	3
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		自然分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
1年次履修制限科目数			15

(地理学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎地学, 基礎地理学 (自然地理学) (人文地理学) (必修)	2
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から1科目を選択必修	1
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(歴史学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	基礎歴史学 (必修)	1
5	一般教育科目	人文分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
		社会分野・開講科目の中から3科目を選択必修	3
		自然分野・開講科目の中から2科目を選択必修	2
1年次履修制限科目数			15

(社会学科)

順序	授業区分	授 業 科 目 (適 用)	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ (必修)	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語 (選択必修)	4
3	保健体育科目	保健体育理論(半期), 体育実技 (必修)	2
4	基礎教育科目	社会学概論, 社会福祉概論, 心理学概論 (必修)	3
5	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から計5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	5
			5
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

- イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月ないし2月に実施される。
- ロ. 受験にあたっては、正規の手続きを経て登録した授業科目であること。
- ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、主題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上提出すること。なお指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。
- ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。
(注意) 試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験(同一科目を一括して行う試験)は曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等掲示に充分注意すること。

2. 中間試験

授業科目によって担任者が独自に行う試験(レポート提出を含む)のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I 追試験

- イ. 追試験は、やむを得ない事由があり定期試験(レポート提出を含む)を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその事由を記し、自分の全ての試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示板参照)
- ロ. 追試験料は徴収しない。

II 再試験

- 1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。
卒業年次生に限り下記により実施する。
- イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。
- ロ. 受験料は1科目500円とする。

III 体育・外国語科目・その他

- イ. 体育実技・演習・その他実験実習を伴う科目は、追・再試験ともこれを行わない。
- ロ. 外国語科目についても追・再試験を行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後一週間以内に担任教員に申し出て指導を受ける。

4. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）・良（79点～70点）・可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、可以上を合格、不可は不合格とする。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については規定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は70点以下とする。

5. 進級基準

◎正規進級

上級学年に進級する場合は下記の単位数の取得を要する。

- イ. 1年次から2年次に進級する場合、卒業所要単位のうち30単位以上。
- ロ. 2年次から3年次に進級する場合、卒業所要単位のうち60単位以上。
- ハ. 3年次から4年次に進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上。

ただし、90単位以上の者でも、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の必要単位数を全て取得していること。

◎注意進級

正規の進級基準には達しないが教育的配慮から進級を認める。ただし注意進級が再度つづく場合には、取得単位の不足から4年間で卒業することが困難となるので、今後十分に自戒して所定の単位数を取得するよう努めることが必要である。

- イ. 1年次から2年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち29～20単位までとする。
- ロ. 2年次から3年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち59～50単位までとする。
- ハ. 3年次から4年次に注意進級する場合、卒業所要単位のうち90単位以上を取得するもその内一般教育科目・保健体育科目・外国語科目の不合格単位数の合計が16単位までとする。ただし17単位以上は留年とする。

6. 受験者心得

- イ. 指定された試験場（教場）で受験すること。
- ロ. 学生証を所持しない学生は、いかなる理由があっても受験できない。また、学生証は監督者が見やすいように通路側に提示しておくこと。
- ハ. 試験開始より30分以上遅刻した者は受験できない。また開始後30分を経過するまで退場できない。
- ニ. 答案の作成はペン書き（ボールペン可）を原則とする。とくに、学部・学科・学年・番号・氏名は必ずペン書きにし、解答にかかる前に記入すること。
- ホ. 次の場合は退場を命じ、その答案を無効とする。

(1) 私語や態度の不正なもので注意しても改めないとき

- (2) 許可なく物品・教科書・ノート類を貸借したとき
 - (3) 監督者の指示に従わないとき
- へ. 次の場合には, その答案を無効とする。
- (1) 無記名のもの
 - (2) 配布された答案用紙以外のものを用いたとき
 - (3) 指定された場所に提出しないとき
- ト. 答案用紙は指定の枚数だけ配布し, 原則として書き損じても再交付しない。
- チ. 受験中に不正行為があつて, 当該教授会が不正行為と認定したときは, 学則第57条により懲戒する。なお, 懲戒は全学に公示する。
- リ. 以上のほか, 試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示による。

Ⅵ クラス制およびクラス主任

- イ. 学科の実情に応じて、1・2・3年次にクラス主任若干名をおいている。
- ロ. クラス主任は、学生の学習指導、生活相談等に当たっているから、これらのことについては遠慮なく相談されたい。

Ⅶ 教職課程・資格講座

文学部で開講されている資格取得の課程・講座は教職課程・学校図書館司書教諭・博物館学（学芸員）・社会福祉主事・社会教育主事の1課程4講座である。

教職課程は、教員資格取得のためのもので、本学において教職課程の所定単位を修得したのものには、中学校・高等学校教諭の各免許状が与えられる。

学校図書館司書教諭・学芸員・社会福祉主事・社会教育主事の各講座は、学校教員とならんで重要な社会教育の代表的な施設である図書館、博物館、青少年教育施設などの専門職員となる有資格者を養成するために設けられているものである。

課程・講座の履修希望者は1年次の秋（11月中旬）にガイダンスを開催するので、2年次から資格取得のため、科目履修を予定している者は、このガイダンスに出席し「教職課程・資格講座受講の手びき」をもらうこと。（授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること）

詳細は掲示板で発表する。

○開講されている課程・講座

課程・講座名	
教 職 課 程	2年次より
学校図書館司書教諭講座	〃
博物館学講座	〃
社会福祉主事講座	〃
社会教育主事講座	〃

課程・講座の履修は実習の関係上、3・4年次からの登録による履修は認めない。

VIII 事務取り扱いについて

1. 成績発表・成績証明書について

- イ. 前期終了科目・後期及び通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については成績発表後5日以内に教務部⑨番窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担任教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は卒業年度生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間について

授業時間は次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	12:50～ 14:20	14:30～ 16:00	16:10～ 17:40

3. 事務室の事務受付時間について

- イ. 事務室の事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休講について

- イ. 休講は担任教員より連絡あり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。したがって、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口にて申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在国電（山手，中央，京浜東北）もしくは東急がストを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲示について

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

掲示板の使用区分

- イ. 第1 掲示板（7号館前）
公示・告示・その他連絡事項
- ロ. 第2 掲示板（6号館横）
学部別連絡事項・その他
- ハ. 第3 掲示板（6号館横）
教職・その他
- ニ. 第4 掲示板（6号館横）
研究室専用

6. 問 い 合 わ せ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要あるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

Ⅸ 届書・願書について

(教務部扱いのもの)

種 類	要 領	必要書類	本人印	保証人印	取窓口		
届	単位履修届	年度初頭の指定する期日に、各年度に修得しようとする授業科目(単位)を必ず届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	掲示	
	欠 試 届	やむを得ない事情で欠試した時は届出用紙に理由を書き、本人履修全科目の試験終了後ただちに届け出ること。(締切日は掲示参照)	所定用紙あり	不要	不要	(9)	
	卒業論文論題届 (仏教・文学部のみ)	各学部掲示板にて指示するので、指定期間内に指導教授の承認印を受け、届出ること。	所定用紙あり	要	不要	(6)	
	改 氏 名 届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	(5)	
	本籍地変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 戸籍抄本1通添付	要	不要	(5)	
	保証人変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり 在学誓書(保証書)添付	要	要	(5)	
	保証人住所変更届	変更後1週間以内に届け出ること。	所定用紙あり	要	不要	(5)	
書	死 亡 届		所定用紙あり 死亡診断書添付		要	(5)	
	願	休 学 願	病気その他の理由で引き続き2か月以上修学することができないときは、保証人連署の上願い出て休学の許可を得なければならない。	所定用紙あり 傷害・疾病による場合は医師の診断書添付	要	要	(5)
		復 学 願	願い出により休学した者が復学する場合は、毎学年の始めとし、保証人連署の上願い出て復学の許可を得なければならない。「復学願」の提出は4月初旬までとする。	所定用紙あり 傷害・疾病による休学をした場合は医師の通学可能である証明書添付	要	要	(5)
		退 学 願	傷病その他やむを得ない理由で退学する場合はその理由を付し、保証人連署をもって願い出て許可を得なければならない。	所定用紙あり 学生証添付	要	要	(5)
書	転部(科)・転学願	事前に教務部に相談すること。	所定用紙あり (転学はなし)	要	要	(7)	

X 各種証明書取り扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成 績 証 明 書	教務部④番	
卒 業 (見 込) 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
単 位 修 得 証 明 書 (教職, 司書教諭, 学芸員, 社会教育, 社会福祉)		
一 般 教 養 科 目 修 了 (見 込) 証 明 書		
満 期 退 学 (見 込) 証 明 書 (博 士 後 期)	教務部⑥番	一通 100円 (英文証明書) (一通 300円)
修 了 (見 込) 証 明 書 (修 士)		
修 士 証 明 書		
在 籍 証 明 書 (中途退学者に限る)	教務部⑤番	
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	医 務 室	
在 学 証 明 書	学 生 部	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料は現金で経理部窓口に納入）の上、取扱い窓口に申し込むこと。

発行は原則として3日後。ただし教務部取扱い証明書は、6月下旬より10月中旬と3月は大変混雑が予想されるので、掲示に注意し、充分余裕をもって申し込むこと。

講義内容目次

一般教育科目(共通)	(67)
外国語科目(共通)	(75)
保健体育科目(共通)	(76)
随意科目(共通)	(80)
国文学科	(86)
英米文学科	(99)
地理学科	(113)
歴史学科	(126)
社会学科	(144)
教職および資格講座	(167)

大 綱 考 試 題

- (一).....
- (二).....
- (三).....
- (四).....
- (五).....
- (六).....
- (七).....
- (八).....
- (九).....

一般教育科目 (共通)

人文分野

宗教学 I(洗 建)……………67
 宗教学 I(佐々木宏幹)……………67
 宗教学 I(松田 文雄)……………67
 宗教学 I(脇本 平也)……………67
 宗教学 I(再クラス)(奈良 康明)……………68
 宗教学 I(再クラス)(松本 皓一)……………68
 宗教学 II(青龍 宗二)……………68
 宗教学 II(峯岸 孝哉)……………68
 宗教学 II(河村 孝道)……………68
 宗教学 II(若月 正吾)……………68
 宗教学 II(石井 修道)……………69
 哲学(門脇 俊介)……………69
 哲学(中村友太郎)……………69
 論理学(小宮山 隆)……………69
 論理学(戸田 洋樹)……………69
 歴史学(山口 一之)……………70
 文学(新井 章)……………70
 芸術学(日本美術)(竹内 尚次)……………70
 芸術学(西洋美術)(中山 典夫)……………70

社会分野

法学憲法(和知 恵一)……………70
 法学憲法(高橋 政美)……………71
 経済学(荒木 勝啓)……………71
 政治学(小林 正敏)……………71
 社会学(橋爪 敏)……………71
 文化人類学(加藤 正春)……………72
 地理学(渡辺 盾夫)……………72

自然分野

自然科学概論(丹羽小弥太)……………72
 自然科学概論(宇和川正人)……………72
 数学(斉藤 浩三)……………72
 物理学(木澤 綏)……………73
 生物学(丹羽小弥太)……………73
 心理学(天野 珠子)……………73
 心理学(小野 浩一)……………73
 人類学(中島 寿雄)……………73
 地学(宇和川正人)……………74
 化学(高木 正博)……………74

外国語科目 (共通)

英会話(N. Readdy)……………75
 英会話(W. D. Hubbard) ……75

保健体育科目 (共通)

体育実技……………76

随意科目 (共通)

宗教学特講 I(松田 文雄)……………80
 宗教学特講 II(脇本 平也)……………80
 宗教学特講 III(洗 建)……………80
 哲学特講 I(東洋)(篠原 寿雄)……………80
 哲学特講 II(西洋)(国嶋 一則)……………80
 宗教学人類学(佐々木宏幹)……………81
 民間信仰論(桜井徳太郎)……………81
 日本宗教文化史(脇本 平也)……………81
 民衆宗教成立史(篠原 寿雄)……………81
 歴史哲学(国嶋 一則)……………81
 日本民俗学(山折 哲雄)……………82
 美術史概説(林 良一)……………82
 東洋思想研究(船津 富彦)……………82
 日本文化史 I(圭室 文雄)……………82
 日本仏教史(大野達之助)……………82
 ドイツ語 F(吾妻雄次郎)……………82
 ドイツ語 F L L(初級)(野島利彰)……………83
 ドイツ語 F L L(中級)(小林佳世子)……………83
 フランス語 F(前田 祝一)……………83
 フランス語 F L L(初級)
 (マドレーヌ・マルタン)……………83
 フランス語 F L L(初級)(松岡 宏一)……………83
 フランス語 F L L(中級)
 (マドレーヌ・マルタン)……………83
 中国語 F(前山加奈子)……………84
 中国語 F L L(初級)(果 荃英)……………84
 中国語 F L L(中級)(羅 濛明)……………84
 スペイン語 F(佐藤政美子)……………84
 スペイン語 F L L(初級)
 (ホワン・ナバロ)……………84
 スペイン語 F L L(中級)
 (ホワン・ナバロ)……………84

ロシア語F(杉山 秀子).....85	日本語F(初級)(留学生対象)
ロシア語FLL(初級)	(杉山 秀子).....85
(タチャーナ・バリーソヴナ・野村)…85	日本語F(中級)(留学生対象)
ロシア語FLL(中級)	(杉山 秀子).....85
(タチャーナ・バリーソヴナ・野村)…85	

一般教育科目(共通)

人文分野

宗 教 学 I

洗 建

宗教はあらゆる文化の基底をなしている。特定の信仰をもっていなくても、われわれはそのような宗教文化の中で生きている。宗教は文化において、社会において、人生において、どのように表われてくるのだろうか。身近な宗教現象を通じて、宗教の意義や役割を理解することを目指したい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

佐々木 宏 幹

宗教学の主要問題について考察するとともに、仏教、キリスト教、神道、民俗宗教の教理・観念とその人間的・社会的意味・役割について追究する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕小口偉一『宗教学』（弘文堂）

宗 教 学 I

松 田 文 雄

前期において、人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の学問的領域その研究方法、さらに宗教の起源論、宗教の分類等について、概説し、後期において、史上にあらわれた宗教現象、特に世界宗教（Universal Religion）といわれる仏教・キリスト教・イスラム教等について各説する。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I

脇 本 平 也

人間生活のあるところには必ず何らかの形の宗教現象が見られる。これは古今東西を通じて変らぬ一つの事実である。それでは、宗教はいかにして始まったのか、その歴史はどのように展開したか、また宗教にはどのような種類のものがあるか、といった疑問が続いて出てくることになる。これらの疑問にできるだけ体系的に答える努力を試みたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 I (再クラス)

奈良 康 明

人間生活における宗教、仏教の意味と機能、構造をあきらかにしてゆきたい。出来るるかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕 『宗教ハンドブック』 (世界書院)

宗 教 学 I (再クラス)

松 本 皓 一

人間にとって宗教とは何か。その社会的意味を明らかにし、現在に生きるものの立場から宗教を考えてみる。

〔教科書〕 『宗教学I』 (更生社)

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

宗教学IIは宗教学Iを受けて「禅仏教」を解説してゆくが、特に道元禅を中心として現代的意義を把握理解せしめるよう講義を進める。特にテキストは使用しないので、出席に心がける事。

宗 教 学 II

峯 岸 孝 哉

中国で成立し、大いに展開をとげた禅仏教の解説を目的とする。まずインド、中国、日本における禅仏教の歴史について述べ、続いて禅仏教の思想的構造について考える。さらに禅仏教のもつ今日的意味や機能について考える。

〔教科書〕 『宗教学II』 (更生社)

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

宗 教 学 II

河 村 孝 道

日常的立場と宗教的立場における視点の相違について理解、禅仏教の立場の思想的理解および宗教(禅)と人生との関り合いとそこからの種々の問題について考察する。

〔参考書〕 『宗教学ハンドブック』 (世界書院)

宗 教 学 II

若 月 正 吾

昭和の初期、和辻哲郎博士の「沙門道元」によって近代における道元禅師の日本精神史上の位置づけがなされ、続いて秋山範二氏の「道元の研究」さらには田辺元博士の「正法眼蔵哲学私観」の著書によって、道元禅師の研究は学界の注目するところとなった。

道元禅師の主著「正法眼蔵」の研究は戦後ますます旺んになったが、その内容はまこと

に難解とされている。

「正法眼蔵随聞記」は禅師の弟子懷辨禅師が親しく随侍した間に、教えを聞くに随って書きとめたもので、正法眼蔵研究の手がかりとなる好個の書である。随聞記を講読することによって、道元禅師の思想ならびに禅とは何かということを模索してみたいと思う。

〔教科書〕 大久保道舟校註『正法眼蔵随聞記』（山喜房仏書林） ¥ 1,000

宗 教 学 II

石 井 修 道

駒沢大学で行なわれている宗教学Ⅱとは、宗教学とは何か、仏教とは何かを学んだ宗教学Ⅰの後を承けて、禅とは何かについて具体的に学ぶ課題である。インドからやって来たダルマを開祖とする禅は、何よりも実践を重んじているので、第一はその思想が生まれてくる背景は何かをまず学びたい。次にダルマ以降に発展する禅では、自己への問いかげを最重要課題とするので、第二は禅でいう自己とは何かを問題にして行きたい。第三は禅の歴史の上にあられる個性的な禅者を通して、禅が何をめざしているかを考えたい。

〔教科書〕 『宗教学Ⅱ』（更生社）

哲 学

門 脇 俊 介 ・ 中 村 友 太 郎

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわれが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならない。そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識にも努める。

〔教科書〕 『哲学思想の歴史』（公論社）

論 理 学

小 宮 山 隆 ・ 戸 田 洋 樹

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はひろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得をする。

〔教科書・参考書〕 その都度指示する。

歴史学

山口一之

政治史の観点からの幕末維新史の議義。明治維新・明治政府というものを考える材料に
していただければ幸いです。

文学

新井章

日本の詩歌の歴史を概括的に把握する。上代、中世、近世、近代の四つの時代に分けて
考察しつつ新しい詩歌の方向をさぐる。

〔教科書〕 『日本韻文史』（桜楓社）

〔参考書〕 『小倉百人一首の世界』（三弥井書店）

芸術学（日本美術）

竹内尚次

各時代の国宝・重要文化財の代表作品を、それについての正確な史料を提示し、これに
よってそれぞれの個人が、東洋に遺された古美術品の神髄に、少しでも触れる。しかもそ
のなかで禅林美術の位置・芸術性・純粋な哲学性に近づこうとする作業をする。

従って春秋2回高度の古美術展を参観して、それぞれ考えてもらい、要はその作品に内
在する詩と純粋な真実も握み出す学習である。従って、術学的な教養や上すべりな知識
（もの知り）を求める者は、敢て参加されることを拒否するものである。とくに、教室で
雑談をする無節操な輩は、予め参加をお断りする。

〔参考書〕 玉村竹二 『夢窓国師』（平楽寺書店）

芸術学（西洋美術）

中山典夫

西洋美術の歴史を、古代から、中世を経てルネサンスに至るまで、作例を多く挙げて展
望する。講義にはスライドを用いる。

〔教科書〕 澤柳大五郎『様式の歴史』（美術出版社）

社会分野

法学憲法

和知恵一

われわれは、社会生活を営むに際して常に「法」とかかわりを持たねばならない。なぜ
なら、交通機関を利用したり、アパートを借りたり、デパートで買物をするといった日頃
の活動にはすべて「法」的な側面があるからである。

これら日常の活動と「法」とがいかに関連しているのか、また「法」はいかなる機能を

果たしているか等について、教科に挙げられている豊富な事例を用いて講義をすすめる。

〔教科書〕 小林・花井・高橋・和知共著『事例法学入門』（東京教学社）、『小六法』

法 学 憲 法

高 橋 政 美

〔前期〕 法学……Legal mind の把握を主たる目的とし、法の一般的、基礎的理論や用語の理解に努める。

〔後期〕 憲法……日本国憲法の基本原理（国民主権・国民の権利及び義務・権力分立……）の理解をめざす。

※なお全体として、各種の判例を検討し、法の具体的適用の様に留意しながら講義をしたいと考えている。

〔教科書〕 小林・花井・和知・高橋著『事例法学入門』（東京教学社）

〔参考書〕 『六法全書』

経 済 学

荒 木 勝 啓

現代に生きる人がどうしても避けて通れない日常的な経済現象がある。円高・円安、公定歩合の高低、財政赤字の大小、課税、等々。

インフレーションの問題を別にすると、こうした現象は、実のところそうたいして難しい理論を用いなくても容易に理解されるのである。この講義では、そうした諸現象の解明に必要なマクロ経済学の基本を身に付けることを目標としている。参考書は授業中に指示する。教科書は指定しない。

政 治 学

小 林 正 敏

現代政治学の諸課題を政治社会学的な側面をも考慮しながら論述する。

〔教科書〕 高橋正則他著『現代日本の政治構造』（芦書房）

社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問のもつ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係の現象、集団の現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』〔新版〕（学文社）

〔参考書〕 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』（学文社）

文化人類学

加藤 正春

文化人類学の基本的な概念、研究方法、課題などを講義する。できるだけ具体的な事例をあげながら、社会組織や宗教、世界観、文化変化その他の人類生活の諸側面を検討する。とくに、現在実態調査をこころみている沖縄や本土の民俗社会の事例も紹介し、人間と文化にかんするいくつかの具体的問題を考えてみたい。

参考書類は講義中に適宜指示する。

地理学

渡辺 盾夫

この講義では、人文地理学を中心にし、地理学史に始まり「自然環境によって異った社会が成立している」ことから自然環境、社会環境等を説明し、この中で人間がどのように各々の環境に適応しているのかを、それぞれの分野から講義する。

講義では、特に教科書は使用しないが、必要な時にはプリントを配布する。

自然分野

自然科学概論

丹羽 小弥太

自然科学発祥以来今日までの進歩発展の歴史を展望し、科学の本質、科学と人間社会の係わり合いに論及する。重点項目としては ①文明の発祥 ②古代ギリシアの科学 ③中世暗黒時代と科学 ④ルネサンス、近世の開幕 ⑤近世から現代へ ⑥現代科学の特質 ⑦科学の進歩と人類の将来をあげておく。

〔教科書〕 不要

〔参考書〕 『自然科学概論』（裳華房） ￥1,400

自然科学概論

宇和川 正人

自然環境、とくに、水資源、農林水産資源の諸問題について解説する。あわせて、これら資源の開発利用と人類とのかかわりあいについて考察する。

〔教科書・参考書〕 なし

教 学

斎藤 浩三

今日の情報化社会において、主要な役割りを演じているものは数字とくに統計数字である。各種の情報を的確に判断し、また少数の資料から全体をおしはかるには統計的手法が必要である。調査資料の集計と整理、集団の特性、相関、分布、検定、推定、標本調査など統計の基本事項について具体的な例題を示して講義する。

物 理 学

木 澤 綏

RENAISSANCE 後に驚威的な飛躍を見せた、近代物理学の真意は何か。紀元前からそれまで久しく人類を暗黒街に沈めたとされる Aristotelēs 流の教会的物理、両者を普遍的に帰納しつつ近代物理学次の原理を興味深く学ぶ。

ラザフォード、ボーアの原子理論と太陽系模型、素粒子論、“光の重さ”と2つの相対性理論と宇宙、赤方偏移、量子力学、統一場問題とエネルギー、電子回路の集積化、超伝導現象等。

生 物 学

丹 羽 小 弥 太

古代ギリシアのアリストテレスに始まる生物分類学から、今日の生物学の主流である分子生物学確立までの歴史を展望し、生命の本質解明に資し、あわせて生物学の人間社会におよぼす影響についても考察する。

〔教科書〕 『ヒトの生物学』（協同出版） ¥ 1,500

〔参考書〕 『分子と人間』（法政大学出版局） ¥ 960

心 理 学

天 野 珠 子

この講座は一般教養科目に組入れられているので、心理学の関与している問題を全般的に取上げたい。そこで心理学がどのような歴史的背景のもとに現代心理学にみられるような体系化されたものになってきたのか、その研究対象・研究方法について講義し、さらにこれまでの研究成果をもとに具体的事例に即して、上述したこととの関連を紹介したい。

〔教科書〕 『心理学概説』（八千代出版）

心 理 学

小 野 浩 一

心理学全般にわたって基礎的な問題を概観し、心理学的なもの見方、考え方とはどのようなものであるかを考えてゆきたい。講義は以下の項目にしたがって進めてゆく予定であるが、随時供覧実験などを折り込み、心理学研究の雰囲気も味わってもらいたいと思っている。

○心理学とは何か（対象・方法） ○環境の認知（感覚、知覚） ○行動の容容（学習、記憶、思考） ○行動の機制（動機づけ、情動） ○人格の構造 ○社会的行動

〔教科書〕 中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）

人 類 学

中 島 寿 雄

人類学の範囲はきわめて広いので、散漫な講義になることを避け、その範囲のほとんどを被いうる「性」にしぼって講ずる。

〔教科書〕 使用しない

〔参考書〕 講義中随時指示する

地 学

宇和川 正 人

大気・土地・水および生物圏を通じて人類とのかかわりあいについて解説する。あわせて自然環境の保全に対する諸問題について考察する。

〔教科書・参考書〕 なし

化 学

高 木 正 博

まず、化学の領域における基礎的な諸事項を解説する。つぎに、地球化学および環境化学の立場から、化学物質と自然環境の結びつきや、さらにいくつかの身近かな化学物質をとりあげ、化学物質と人間のかかわりあいについてのべる。

外国語科目 (共通)

英 会 話

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK : ENGLISH 900. Book 3. COLLIER MACMILAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

英 会 話

W.D. Hubbard

This aural comprehension and speaking oriented course is designed for those students who either expect to study English conversation for just one year or plan to further their competence through subsequent classes. The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Through the use of effective linguistic methods, this course is designed to help you acquire the ability to successfully communicate your ideas in English.

The text for this course will be ENGLISH 900, Book 3. Tapes for this text will also be made available during the course.

保健体育科目(共通)

実技種目の概要及び指導教員名

一年次生種目〈玉川校舎〉

室内球技(玉川体育館)

宮沢 栄作・長浜 友雄
牧野 茂・光永 吉輝
田中 佳孝・村松 誠
秋田 浩一

バレーボール、バスケットの基礎技術の習得とともに、ゲームにより、その競技を理解する。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

体操(玉川体育館)

三幣晴三

マット、鉄棒などを中心に、初心者を対象とした遊戯的内容から出発し、段階的に技を習得する。

服装：一般的運動服装，体操シューズが望ましい。

トレーニング(玉川体育館)

高橋 俊介・舘岡 儀秋
秋田 浩一・武藤 幸政

個人の体力差に応じたトレーニングプランを作成し、主に最新のトレーニング器械を使用した体力トレーニングを行う。このトレーニングの目的は体力の増進、内臓器官の強化である。

服装：一般的運動服装，上履用シューズ

柔道(玉川体育館)

光永吉輝

初心者を対象として基本技能(受け身)、応用技能(投げの形)(固の形)等の練習を行う。服装は原則として柔道衣。

剣 道（玉川体育館）

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として次の順序で実施する。

1. 基本動作
 2. わざ
 3. 懸り稽古, 互格稽古
 4. 試合稽古
- 服装・試験については最初の授業において説明する。

空 手 道（玉川体育館）

大石 武士・高橋 俊介

拳禅一致の精神に基き、初心者を対象として下記の順序で実施する。

1. 基本技（空気を相手に、受、突、打、蹴技の反復練習）
2. 形（基本の受、突、打、蹴を合理的に構成したものを空気を相手に行う）
3. 護身術
4. 約束基本組手（基本技で取得した、受、突、打、蹴技を実際に相手をおいて行う簡単な約束した組手）

服装は原則として空手道衣着用のこと。

相 撲（玉川体育館）

館 岡 儀 秋

基本技（攻の型・守りの型）の練習を主に、併せて応用技の習得を行い、心・技・体三則の本義を理解させる様指導する。

土俵マットを使用する。服装は海水パンツ等の上に相撲パンツを着用する。

陸 上 競 技（玉川グラウンド）

森本 葵・館岡 儀秋

駒大式四種競技（100米、長距離、砲丸投、走高跳）を行い、得点制とする。

服装はランニングパンツが望ましいが、普通のトレパンでも可。なお、スパイクの着用は原則として認めない。

ソ フ ト ・ ボ ー ル（玉川グラウンド）

太田 誠・森本 葵

基本技能を中心として毎時間ゲームを行う。服装はトレシャツ、トレパン。グラブ、ミットは貸与する。

サ ッ カ ー（玉川グラウンド）

原山 良勁・田中 良孝
秋田 浩一

基本技術を中心として練習し、毎時間ゲームを行う。服装はショートパンツと厚い靴下を着用すること。

ハンド・ボール（玉川グラウンド）

村 松 誠

パス、シュート等基本技術を中心にゲームを行う。服装は、トレジャツ、トレパン、運動靴を用意すること。

テ ニ ス（玉川グラウンド）

長浜 友雄・牧野 茂

田中 佳孝・浅野 鉦世

嶋田美津子

ゲーム（ダブルス）中心の授業を行う。服装は、一般的運動服装（白のトレーニンングパンツまたは短パンツが望ましい）とするが、靴はテニスシューズを用意すること。

卓 球（玉川校舎）

長浜 友雄・高橋 俊介

嶋田美津子

ゲーム（シングル、ダブルス）中心の授業を行う。服装は体育時のもので良い。室内履シューズを用意すること。ラケットは貸与する。

太 極 拳（玉川体育館）

大 石 武 士

太極拳の基本的な動きを習得し、精神・身体を健康を増進する。服装その他の注意は第一時限目に説明する。

実 技 教 場 案 内

玉川体育館・グラウンド・校舎：世田谷区宇奈根 1-1-1（学生手帳を参照）

TEL (709) 0717

再 履 修 生 種 目 〈本 校〉

室 内 球 技（本校体育館）

宮沢 栄作・原山 良勁

基礎技術の習得とに併せて、ゲームにより、その競技を理解する。（バレーボール、バスケットボール、その他）

服装：一般的運動服装、上履用運動靴。

空 手 道（本校第二体育館）

大 石 武 士

拳弾一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装は原則として空手道衣着用のこと。

剣 道（本校第二体育館）

上 山 智 身

剣禅一致の精神に基き、初心者を対象として実施する。服装・試験については最初の授業において説明する。

実 技 教 場 案 内

- (1) 本校体育館：本学内，男子更衣は三階 東側スタンド。（ステージに向い左側）女子は三階西側の更衣室。（ステージに向い右側） TEL（418）9517・9213
- (2) 本校第二体育館：本学内，相撲道場の隣，一階は柔道場，二階は剣道・空手道場。更衣室は各階にある。 TEL（418）9201

随意科目(共通)

宗教学特講 I

松田文雄

——宗教思想および用語の解説——，特に教職単位であることを考慮し，宗教思想の潮流，および宗教思想史上の基本的用語を概説する。今年度は日本仏教を取り上げる。

〔教科書〕 プリント

〔参考書〕 随時指示する。

宗教学特講 II

脇本平也

——宗教現象の構造——宗教現象は，その内部にさまざまな構成要素をはらんだ複合的な体系をなしている。たとえば，宗教体験，思想・教義，儀礼，教団など諸契機が構造的に関連しながらこれを形成している。そうした構造の分析と類型化を試みる。

〔参考書〕 適時指示する。

宗教学特講 III

洗建

現代社会における宗教の問題，とりわけ政教関係の問題をとりあげる。国家と宗教の関係の規定する法制度とその価値規範，更に底流をなす宗教文化との関係などについて考察する。

〔参考書〕 適時指示する。

哲学特講 I (東洋)

篠原寿雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする，儒教・仏教，そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命，非儒などの精神が韓非子にいかん受容されたかなどを中心に，先秦の人びとの心にあるものを探りたい。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

哲学特講 II (西洋)

国嶋一則

人間は，何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常，われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは，自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって，現代世界の有力な主義を明確にし，自己

の持つべき主義を選択する手掛りとしたい。

〔参考書〕 その都度示す。

宗 教 人 類 学

佐々木 宏 幹

諸民族の呪術—宗教的生活を構造—機能的に理解しようとした人類学者の研究論文を若干取り上げ、紹介するとともに、私が国内、国外各地で行なった実態調査の結果について述べる。参考書は必要に応じて挙げる。

民 間 信 仰 論

桜 井 徳 太 郎

成立宗教の展開を支えた民間信仰の性格や機能を具体的に即して分析しながら、民俗宗教のもつ意義を究明する。文学・人文地理学・史学・社会科学・仏教学など関係する諸学問を志すものに対し有効である内容としたい。

〔教科書〕 桜井徳太郎『日本民俗宗教論』（春秋社）

日 本 宗 教 文 化 史

脇 本 平 也

—宗教思想論争—昨年度に引き続き、日本における宗教思想の対立・論争の事例をいくつか取り上げ、文化史的背景を考慮しながらなめてみる。原史料を読む場合には、演習形式を取り入れて学生諸君にも分担を課することがある。

〔参考書〕 適時指示する。

民 衆 宗 教 成 立 史

篠 原 寿 雄

特定の教祖も詳かでなく、その教義も体系化されず未組織である民衆宗教には、民衆思想史の上からも解明をまたれる多くの課題を蔵している。今年度はそれら民衆宗教の中で現に中華民国にて崇敬され信仰されている軒轅教や一貫道などを中心に考究したい。これらは現在、彼の国できわめて熱い眼ざしで見つめられている宗教である。

〔教科書〕 その都度紹介したい。

歴 史 哲 学

国 嶋 一 則

歴史哲学とは、歴史に関する哲学である。そしてこの哲学によって、われわれは「いかに生き、何を行為すべきか」を学ぶのである。そこで、次のような歴史についての反省や考察をする。

I 歴史の概念。II 歴史の意義。III 歴史の叙述〔1〕 a. 文書の選択, b. 記録命題, c. 還元推理による因果的説明。IV 歴史の叙述,〔2〕 a. 歴史を動かす意志, b. 表現。

〔参考書〕 その都度示す。

日本民俗学

山折哲雄

日本人の民族性と自我構造の特質について、民俗学の立場から考察する。

〔教科書〕 山折哲雄『日本人の心情』（NHKブックス）

美術史概説

林良一

本年度は、日本の古代美術史、ことに飛鳥・白鳳・天平時代の様式的展開について講述する。寺院や遺品などのカラー・スライドを映写し、理解を深めるように努める方針である。

東洋思想研究

船津富彦

中国人の持つ独自の思想はいろいろあるが、それらの中で、非常にすぐれたものであって、日本文化にも大きな影響を与えたものに文学思想がある。本年度は上代から現代に至るまで、中国人が文学について如何に考えたか、その作品に如何なる影響を与えたか、日本文化とのかかわりについて、資料を中心にして、いろいろの点から考察してみたい。

日本文化史 I

圭室文雄

日本における歴史の流れを考える時、その文化現象として宗教が果たした役割はきわめて大きい。ところが現代の生活においては、冠婚葬祭を除けば我々の日常にはほとんど関係がなくなっている。それだけに我々が過去の歴史を考えるとき、ともすれば等閑視するきらいがある。それゆえ、ここでは古代より現代に至る生活の中で、宗教が果たした役割をあきらかにしたいと思う。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

日本仏教史

大野達之助

仏教伝来の年時と豪族の仏教受容の様相、聖徳太子の三経義疏撰述と義疏の真撰論・偽撰論の問題、飛鳥・白鳳時代の造寺・造仏の信仰、南都六宗の成立、国分寺建立事業と大仏造立及びその思想的意義などについて講義する。

〔教科書〕 『新稿 日本仏教思想史』（吉川弘文館）

ドイツ語 F

吾妻雄次郎

主として2年次までドイツ語を学んだ学生を対象に、Bredel, Hermlin, Seghers, Wolf 等の現代作家の短篇を通じて、読解力を養い、ナチ支配下のドイツの作家たちが、現実をどのように捉え、どのように将来に希望を繫いでいたかを識る緒にしたい。

〔教科書〕 教材は授業の際に指示する。

ドイツ語 FLL (初級)

野島利彰

耳と口と眼を使って現代の生きたドイツ語を学ぶことを目的とする。正しい発音および基本的な文型や語彙を身につけ、日常会話の能力を養うようにしたい。

ドイツ語 FLL (中級)

小林佳世子

活字としてのドイツ語よりも、音声としてのドイツ語に触れ、意志の疎通の基本的な条件である聴き取り能力を養成することを主眼とする。出来るだけ多様なテープを聞き、また、ビデオテープをも用いて様々な生きたドイツ語に親しめるようにしたい。なお、受講者は一年次のドイツ語(1G・1R)を終えていることが望ましい。

フランス語 F

前田祝一

「フランス女流文学史」(19世紀)。主として女流詩人の詩を中心に読み、講義する。
〔教科書〕 プリントを配布する。

フランス語 FLL (初級)

マドレーヌ・マルタン

テキストを使ってやさしい会話、初めの時間にテキストの説明をし、次の時間にテキストに従って会話をする。

- テキストの復習をよくすること。
 - 間違いを恐れずに活発な発言をのぞむ。
 - 松岡先生の会話のクラスを併せて履修することがのぞましい。
- 〔教科書〕 教場で指示する。

フランス語 FLL (初級)

松岡宏一

LL部に備えてある HACHETTE 社の「LE FRANÇAIS ET LA VIE」を使用して講義をすすめます。耳の訓練に重きをおき、こちらの設問に適宜な反応を示せるよう指導いたします。この教科書にはスライドと音声がついておりますのでこれを十二分に活用し、効果をあげたいと念じております。

生徒諸氏に望みたいことは、LLだけではなく、同時に他のフランス語正課にも出席していただきたいです。

〔教科書〕 「LE FRANÇAIS ET LA VIE」(HACHETTE)

フランス語 FLL (中級)

マドレーヌ・マルタン

「仏語FLL」(初級)を終えた者、またはそれと同程度の学力のある者を対象に、それ以上の会話の力を修められるよう指導する。

〔教科書〕 教場で指示する。

中 国 語 F

前 山 加 奈 子

基礎的な文法を修得した三年次生以上を対象とします。現代作家の短篇を教材にして、中国語の特長をおさえ、文法的にも更に深めていきたい。又、作品を通して中国社会への認識を深めるようにしたい。

〔教科書〕 丁玲、列心武などの作品、開講時に教場で指示、配布します。

中 国 語 FLL (初級)

果 荃 英

中国語初級を終えたものを主たる対象とし、正確な発音をマスターし、やさしい中国語の会話を習得することを目的とする。視聴覚教材（ビデオテープ）を使用して楽しく授業を進めたいと思う。

〔教科書〕 教場にて視聴覚教材のコピーを配布する。（無料）

中 国 語 FLL (中級)

羅 漾 明

中国語FLL初級を終えたもの、又はそれに準ずるもの（正しい発音をマスターしたもの）を対象とする。高度な中国語会話力を身につけることを目的とする。映画や放送録音等を教材として使用し、学生諸君と楽しく勉強を進めたいと思う。

〔教科書・参考書〕 教室で指示します。

ス ペ イ ン 語 F

佐 藤 玖 美 子

この授業は、1・2年で習得した知識を更に発展、深化させることを目指しており、特に講読力と作文力の養成に力を入れたいと思う。

テキストは受講者の程度によって、適当なものを選ぶ予定。

ス ペ イ ン 語 FLL (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドを見ながやさしい日常会話を勉強します。

ス ペ イ ン 語 FLL (中級)

ホワン・ナバロ

前年度LL初級を終えたもの、またはそれを同等の学力を身につけているものを対象とする。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力の養成を目標とする。名文といわれる様々なスタイルのロシア語の文章に接することにより、ロシア語のもつメリハリのある美しさと力強さを味わっていただきたいと思う。

〔教科書〕 教場にて指示します。

ロシア語 FLL(初級) タチャーナ・バリーソヴナ・野村

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕 『ロシア語を話しましょう』を使用する。

ロシア語 FLL(中級) タチャーナ・バリーソヴナ・野村

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独特な生の言いまわしや、日常会話の平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に心がけていきたい。

〔教科書〕 教場にて指示。

日本語 F(初級)(留学生対象) 杉山 秀子

本講座は昭和57年度に初めて設置された留学生のための日本語の随意科目である。日常生活における意志伝達にはさほど苦勞しないが、若干こみいった内容の聴きとりや説明、正しい表記・用語法などに困難を感じている留学生諸君は是非受講されることが望ましい。なお、受講者の日本語のレベルもバラバラであると予想されるので、授業の最初に簡単なアンケートとテストに答えてもらい、その後細目について詳しく説明する。授業では最新の日本語教育用のビデオやスライド等を駆使しつつ、現代生活に密着した正しい日本語を修得することを旨としていきたい。

〔教科書〕 面談の上決定します。

日本語 F(中級)(留学生対象) 杉山 秀子

日本語Fの初級課程を終えたもの、あるいはそれと同等の学力を有する留学生を対象とし、日本語での発表能力や、表記・表現法をさらに高め、深化させていく。授業では適時、新聞・雑誌の読みあわせや、NHKの教養番組の聴きとり、ニュース解説、日本映画等のビデオ録画をとりあげて、偏りのない日本語の総合力を身につけることをめざしたい。

——一週間に一度は必ず小テストをし、レポートの提出を義務づけるので授業はなるべく休まないこと。

〔教科書〕 教場にて指示します。

国 学 科

基礎教育科目

基礎国文学(片岡 懋)……………87
基礎国文学(富士 昭雄)……………87
基礎国語学(木村 晟)……………87
基礎中国文学(中村 璋八)……………87

専門教育科目

国文学概論(渡辺 三男)……………88
国語学概論(木村 晟)……………88
国文学講読Ⅰ(村上 光徳)……………88
国文学講読Ⅱ(高橋 文二)……………88
国文学講読Ⅲ(富士 昭雄)……………89
中国文学講読(篠原 寿雄)……………89
国語学研究(山田 巖)……………89
国文学史Ⅰ(上代)(小野 寛)……………89
国文学史Ⅱ(中古)(渡辺 三男)……………89
国文学史Ⅲ(中世)(岩佐美代子)……………89
国文学史Ⅳ(近世)(乙葉 弘)……………90
国文学史Ⅴ(近代)(橋本芳一郎)……………90
国語学演習Ⅰ(木村 晟)……………90
国文学演習Ⅰ(上代)(小野 寛)……………90
国文学演習Ⅰ(中古)(高橋 文二)……………90
国文学演習Ⅰ(中世)(村上光徳・水原一)91
国文学演習Ⅰ(近世)(富士 昭雄)……………91
国文学演習Ⅰ(近代)(片岡 懋)……………91
国文学演習Ⅰ(近代)(石割 透)……………91
国文学演習Ⅰ(近代)(大室 英爾)……………91
国語学演習Ⅱ(山田 巖)……………91
国文学演習Ⅱ(上代)(小野 寛)……………92
国文学演習Ⅱ(中古)(高橋 文二)……………92
国文学演習Ⅱ(中世)(村上 光徳)……………92
国文学演習Ⅱ(近世)(乙葉 弘)……………92
国文学演習Ⅱ(近代)(橋本芳一郎)……………92

国文学演習Ⅱ(近代)(片岡 懋)……………92
国文学研究(橋本芳一郎)……………92
国文学研究(片岡 懋)……………93
国文学研究(渡辺 三男)……………93
国文学研究(村上 光徳)……………93
文学概論(橋本芳一郎)……………93
国語史(木村 晟)……………93
言語学概論(飯島 周)……………93
上代文学(小野 寛)……………94
中古文学(高橋 文二)……………94
中世文学(村上 光徳)……………94
近世文学(富士 昭雄)……………94
近代文学(片岡 懋)……………94
近代文学(寺田 清市)……………94
国文学特講Ⅰ(乙葉 弘)……………95
国文学特講Ⅱ(菊地 良一)……………95
国文学特講Ⅲ(岩佐美代子)(水原 一)95
国文学特講Ⅳ(寺田 清市)……………95
中国文学(中村 璋八)……………95
中国文学演習(飯田 利行)……………96
中国文学概論(飯田 利行)……………96
仏教概論(山内 舜雄)……………96
東洋思想研究(船津 富彦)……………96
日本史概説Ⅰ(古代・中世)(杉山 博)96
日本史概説Ⅱ(近世・近代)(吉田 常吉)96
日本文化史Ⅰ(圭室 文雄)……………96
日本民俗学(山折 哲雄)……………97
書道史(谷村 義雄)……………97
書道実習Ⅰ(金子 卓義)……………97
書道実習Ⅱ(金子 卓義)……………97
美術史概説(林 良一)……………97
美術史(谷村 義雄)……………98
現代美術(中山 典夫)……………98
有職故実(鈴木 敬三)……………98
編集実務(宇賀田達雄)……………98
英米文化(金閔 寿夫)……………98

国 文 学 科

基礎教育科目

基礎国文学

片岡 懋

日本の古典と近代の作品を見渡し、或る場合には比較検討しながら、作家や作品のそれらが現れた時代や社会との関連、題材の解釈と表現などを通して、各時代の作品の特色に触れ、それらの史的展開を見、文学作品とはどのようなものであるのかについて考える。

基礎国文学

富士 昭雄

日本の古典文学と近代文学との関連を見渡し、あるいはその比較検討を通して、文学上の種々の問題に対する基礎的な理解を深める。具体的に作品に即して研究上の基礎的な知識を養い、また広く日本文学の流れにも考察を進める。

〔教科書〕 プリントを適宜配布する。

基礎国語学

木村 晟

国語を愛し、正しく育てるために十分な理解と批判力を養いたいと思う。併せて現代国語の諸問題をもとりあげて考察する。

本年は日本語の「文法」を体系的に講義する。文法体系は現在最も一般的と思われる橋本学説によるが、必要に応じて山田・時枝両学説を比較対照させることもある。

〔教科書〕 和田利政他『国文法要説（文語篇）』（桜風社） ¥ 980

〔参考書〕 橋本進吉『国語法研究』（岩波書店）

山田孝雄『日本文法学概論』（宝文館出版）

時枝誠記『日本文法（文語篇・口語篇）』（岩波書店）

阪倉篤義『改稿 日本文法の話』（教育出版）

基礎中国文学

中村 璋八

中国古典解説の基礎的知識を習得させることを主眼とし、その資料として中国の古詩、近代詩及び漢、魏、六朝、唐、宋の散文、更に諸子百家の説を読む。その折、漢文訓読法、又は字音、文字、年中行事などの解説も行い、中国文化一般に対する理解を深めさせる。

〔教科書〕 『講読 演習中国思想文学史』（明治書院） ¥ 980

専門教育科目

国文学概論

渡辺三男

国文学の領域・種類・理念および研究法について講じ、国文学と風土・時代・社会との関係等の問題にも及びたい。

〔教科書〕 麻生磯次ほか共著『日本文学概論』（秀英社）

国語学概論

木村 晟

国語学は特殊言語学の一つである。従って言語学の研究成果が国語学の研究にも応用されることは当然あり得る。しかしながら一方、国語には他の諸言語には見られない多くの特徴がある。そのために国語学独自の研究分野や研究方法が存することも事実である。——こういう観点から本年は国語学全般について講ずるとともに、文字論や文体論に重点を置いてみたい。

〔教科書〕 福島邦道『国語学要論』（笠間書院） Y 600

〔参考書〕 橋本進吉『国語学概論』（岩波書店）

時枝誠記『国語学原論』（岩波書店）

山田忠雄『国語学概論』（日大通信教育部）

築島裕『国語学』（東大出版会）

国文学講読 I

村上光徳

『平家物語』の代表的な句を選んで読み、本文を通して平家物語という作品を十分鑑賞する。そして軍記物語と呼ばれるジャンルの問題や平家物語の文学史的評価、または成立の問題、作者の問題、群がる諸異本の問題、今後の研究方向等さまざまな問題を取りあげて解説する。今年はとくに前半を中心に読む。

〔教科書〕 『平家物語抄』（桜楓社）

〔参考書〕 『平家物語全注釈』（角川書店）

国文学講読 II

高橋文二

『源氏物語』宇治十帖の「夢浮橋」の巻を読み、王朝物語世界のありようを考えてみたい。併せて写本の読みにも慣れたい。

〔教科書〕 『手習・夢浮橋』（新典社） Y 1,900

『写本の読み方』（桜楓社） Y 480

国文学講読 III

富士昭雄

西鶴の雑話物『懐硯』講読。西鶴中期の雑話物の読解を通して西鶴文学の特質を考察する。

〔教科書〕 『懐硯』（桜楓社）

中国文学講読

篠原寿雄

古典文学作品中のきわめて代表的なものを学習して、その精華を味読する。訓読法に精通することを主眼にしたいが、韻文は中国音にて読むことにとつめたい。

〔教科書〕 『古文真宝』（明治書院）

国語学研究

山田 巖

教科書として取り上げた天草本平家物語は、大英図書館蔵キリシタン版平家物語であって、世界中この一本のみが世に知られている。天草のイエズス会の学林で1592年（文禄元年）に刊行されたが、苛酷なキリシタン迫害のために残念ながらわが国には残っていない。この平家物語は「日本の言葉とイストリア（歴史）を知らんと欲する人のために世話に和らげたる平家の物語」とあるように、外国から来た神父たちの日本語教科書である。古代語の文法から近代語のそれに移行する過渡期の状態がよくわかる言語資料である。音韻・語法・語彙、文体等について詳しく講述するつもりである。

〔教科書〕 島 正三『天草本へイケモノガタリ検案』（桜楓社） ¥ 1,800

〔参考書〕 『ハビヤン抄・キリシタン版平家物語』（吉川弘文館） ¥ 5,500

国文学史 I（上代）

小野 寛

わが国の文学の発生から記紀・万葉に至る奈良時代以前の文学の展開変遷の種々相を、テーマ別に問題を取り上げて講じ、その研究の現状を解説する。

〔教科書〕 金井清一・小野寛『年表資料 上代文学史』（笠間書院）

国文学史 II（中古）

渡辺 三男

中古（平安）文学史の中、前年度に引きつづき、中・後期に重点をおいて講ずる予定。

〔教科書〕 山崎正之ほか編『資料 日本文学史』（桜楓社）

国文学史 III（中世）

岩佐 美代子

〔中世和歌史〕 新古今集はじめ多彩な中世和歌の歴史を作品・作者を詳しくたどりつつ講じたい。

〔教科書〕 プリントによる。

〔参考書〕 『資料 日本文学史・中世篇』（桜楓社）

国文学史Ⅳ（近世）

乙 葉 弘

近世文学の特質とその史的展開を概説する。

国文学史Ⅴ（近代）

橋 本 芳一郎

近代文学史のうち、明治時代に重点をおいて概説を行う。

〔教科書〕 吉田精一『近代日本文学概説・改訂版』（秀英社版）とノートとを併用。

国語学演習Ⅰ

木 村 晟

室町期の国語資料としての「大山祇神社法楽連歌」を国語史的見地から考察する。この資料は文安二年（1445）から文禄二年（1593）まで約150年間の270余巻の連歌を残しており、連歌史の上からも国語史の立場からも貴重なものである。本年はこれを語法・語彙・表記の面から考察する。

〔教科書〕 プリントを用意する。

〔参考書〕 山田孝雄『連歌概説』（岩波書店）

能勢朝次『連歌と連句』（思文閣出版）

山田孝雄『俳諧文法概論』（宝文館出版）

星加宗一『大山祇神社蔵文安頃の連歌』（『愛媛国文』第6号）

国文学演習Ⅰ（上代）

小 野 寛

万葉集の歌を各自一首ずつ担当して、徹底的によみ込んでゆく。古注釈から現代の研究まで広く調査し、その上に立って自分なりの研究を深め、研究発表と討論とによって、その一首の解釈を創り出してゆきたい。

〔教科書〕 鶴久・森山隆編『万葉集』（桜楓社）

国文学演習Ⅰ（中古）

高 橋 文 二

『竹取物語』を読み、平安朝の物語世界のありようを考えたい。諸本の校合、諸注釈の検討、他の物語作品との比較、用語の調査検討等を演習発表時の当然の前提として読み進めてゆきたい。

〔教科書〕 『竹取物語』（明治書院） ¥ 780

国文学演習Ⅰ(中世)

前期 村上 光徳
後期 水原 一

『保元物語』『平治物語』を読み、解釈考証・伝本・歴史背景・人物像などについて演習を行なう。

〔教科書〕 『保元物語・平治物語』(加藤中道館)

国文学演習Ⅰ(近世)

富士 昭雄

西鶴の『好色一代女』演習。西鶴の好色物を精読し、西鶴文学を解明する。

〔教科書〕 『好色一代女』(岩波文庫)

国文学演習Ⅰ(近代)

片岡 懋

樋口一葉、国木田独歩、田山花袋、夏目漱石、森鷗外、志賀直哉、井伏鱒二、岡本かの子、中野重治らの作品を調べ、各作家とその作品の特色を捉え、明治、大正、昭和各時代の文学の特色の一端に触れたいと思う。取扱う作品については最初の時間に示すが、一葉の「にぎりえ」「十三夜」「わかれ道」「われから」の順に始めてゆく。

国文学演習Ⅰ(近代)

石割 透

「浮雲」(二葉亭四迷)「破戒」(鳥崎藤村)について、さまざまな問題点を検討していき、作品を研究していく方法について考えていきたい。それぞれの作品についてこちらでいくつかの問題点を提出、それについての報告をききながら深めていくという方法をとる。時間が余れば「羅生門」(芥川龍之介)もとりあげる。

〔参考書〕 授業の最初で指示する。

国文学演習Ⅰ(近代)

大室 英爾

二葉亭四迷、森鷗外、樋口一葉、徳富蘆花、国木田独歩、田山花袋、鳥崎藤村、夏目漱石などを中心に、明治20年代から30年代に至る作品をじっくり読みながら、その展開の相を考察したい。

〔教科書〕 各種文庫本を用いる予定であるが、詳細は授業開始時に指示する。

国語学演習Ⅱ

山田 巖

教科書の163頁以下の影印の部分を対象にして講義を始める。参考書は教科書に掲載されているものを参照して本文の読解につとめるべきである。本文に見られる異体の漢字並びに現行の片仮名と異なる仮名について十分留意して読むことをすすめる。

〔教科書〕 『校注 今昔物語集新選』(武蔵野書院) ¥1,000

国文学演習Ⅱ(上代)

小野 寛

「古事記」の演習をする。並行して各自が卒業論文に選んだテーマに関して研究発表し、皆で考え、採み合いながら、各自の卒業論文への結実を図る。

〔教科書〕西宮一民編『古事記』(桜楓社)

国文学演習Ⅱ(中古)

高橋 文二

『源氏物語』を始めとする平安朝の物語世界のありようを考えたい。演習時の研究発表は各自の卒論に関連して行なうが、発表時の方法、手続きなどは昨年(1999)の演習Ⅰに準ずる。併せて卒業論文の指導も行なう。

〔教科書〕『平安後期物語選』(和泉書院) ¥1,500

国文学演習Ⅱ(中世)

村上 光徳

中世の後期軍記物語に属する『明徳記』の研究。永年ほとんどかえりみられなかったこの作品を、まず読解し、語句の調査、時代背景、作品論等にも言及したい。

国文学演習Ⅱ(近世)

乙葉 弘

近松を除いてその他の作者の浄瑠璃をテキストとして演習を行う。卒業論文の指導には、論文執筆者の論題に従い、卒業論文の参考となるような文献をコピーして読みたい。

〔教科書〕日本古典文学大系『浄瑠璃集 上』(岩波書店)

国文学演習Ⅱ(近代)

橋本 芳一郎

日本近代文学のうち、学生が卒業論文に選んだ作家の主要作品を演習として攻究し、併せて卒業論文の執筆指導を行う。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

国文学演習Ⅱ(近代)

片岡 懋

明治大正文学の種々相を考察し、卒業論文作製の一助となるようにしたい。

〔教科書〕アイボリーボックス 日本の文学 {名作集(一)(中央公論社) ¥680
{名作集(二)(中央公論社) ¥680

国文学研究

橋本 芳一郎

「森鷗外とその後継者たち」……鷗外の初期評論と作品、およびその系統を引いた鉄幹・品子・敏らの詩歌、荷風・潤一郎の初期小説などの研究によって、明治20年代から大正

初にかけての日本の西歐的浪漫主義や耽美主義の文学系譜を明らかにしていく。

〔教科書・参考書〕 その都度教示する。詩歌はプリントして与える。

国文学研究

片岡 懋

日本近代文学に於ける写実主義の成立とその展開の相を、作品を通して跡付ける。

国文学研究

渡辺 三男

国文学研究に援用すべき古典資料の解説と利用法について講ずる。私が卒業論文の指導を担当する学生諸君に特に受講するよう希望する。教材は、私の方で用意する。

国文学研究

村上 光徳

平安朝末期から中世にかけて宮廷生活のなれ者として許された一女性の書『無名草子』を読む。特に源氏物語批評の部分で女の論・男の論を中心に源氏物語と合わせて研究する。続いて清少納言・紫式部等中古の女流作家批評へ移る。中世初期の物語論等見ることができ有意義。

〔教科書〕 『昭和校注 無名草子』（武蔵野書院）

文学概論

橋本 芳一郎

世界文学の観点から、文学の本質・目的意識・要素・ジャンルなどについて重要な学説を紹介しながら概説し、併せて近代文芸思潮の概説も行う。

〔教科書〕 ノート使用。

〔参考書〕 その都度教示する。

国語史

木村 晟

国語の変遷のあとを上代から近代に至るまで音韻・語法・語彙の各分野に亘って概観するが、本年は特に上代から院政鎌倉期までの前半部に重点を置いて講義する。

〔教科書〕 佐藤喜代治『国語史(上)』（桜楓社） ¥ 1,200

〔参考書〕 『講座 国語史』〈音韻・文字・語彙・言語生活史〉（大修館）

言語学概論

飯島 周

言語研究の歴史、分野、方法などについて略述し、具体的な分析を試みる。特に日本語と英語における実例を中心に考察し、人類の貴重な財産である言語に対する理解を深めるようにしたい。たとえ部分的であっても、他の言語との比較は、日本語の特質を明確にす

るのに役立つであろう。

〔教科書〕 『機能言語学』（相原書店） ¥ 2,800

上 代 文 学

小 野 寛

前年度に続けて「万葉集」をよむ。今年度は巻一の後半から巻二（相聞・挽歌）をよみ進めることになる。万葉びとにとって歌とは何であったかという問いかけを軸にして、上代の歴史・社会・風土・民俗を考え、その中に生きる万葉びとのところを追い求め、ことばの本源を探る。

〔教科書〕 小野 寛校註『万葉集抄』（笠間書院）

中 古 文 学

高 橋 文 二

『宇津保物語』を読みながら、平安朝初頭の物語世界のありようを考えたい。

〔教科書〕 『うつほ物語(1)』（明治書院） ¥ 880

影印本『宇津保物語(俊蔭巻)』（笠間書院） ¥ 900

中 世 文 学

村 上 光 徳

徒然草を読む。昨年に引き続き内容上から分類整理し、とくに今年は兼好の人間の種々層を述べた部分を中心に読解し、合わせて鑑賞・批評を加えたい。

〔教科書〕 『徒然草 注釈・論考』（双文社出版）

近 世 文 学

富 士 昭 雄

俳論書『去來抄』の読解を中心に、蕉風俳諧の特色を解明する。

〔教科書〕 『去來抄』（桜楓社）

近 代 文 学

片 岡 懋

夏目漱石の周囲に集った作家たち——高浜虚子、長塚節、鈴木三重吉、森田草平、野上弥生子、内田百閒らの作品を考察する。

近 代 文 学

寺 田 清 市

二葉亭四迷から白樺派までの作家の諸作品をとり上げて、近代文学の性格を明らかにしていく。

国文学特講 I

乙葉 弘

〔浄瑠璃史と浄瑠璃講読〕

人形浄瑠璃劇の成立・変遷、歌舞伎との関係など、浄瑠璃の諸問題を講述する。講読は近松の浄瑠璃を取り上げ「冥途の飛脚」その他。なお、近松の伝記、近松の浄瑠璃の特色なども考察する。

〔教科書〕 日本古典全書『近松門左衛門集 下』（朝日新聞社）

国文学特講 II

菊地 良一

〔説語文学〕

前年は今昔物語集天竺部の説話について述べた。本年は続いて震旦・本朝の部について今昔の仏教説話とは何であるかを考察する。また鎌倉期の仏教説話についても、仏教説話の展開がどのようであったかを考察する。

〔教科書〕 なし、ノート講義。

〔参考書〕 授業中に指示する。

国文学特講 III

前期 岩佐 美代子
後期 水原 一

〔「とはずがたり」の研究〕

「とはずがたり」巻二を教材として、作品理解・人物研究・歴史背景・文体研究等を講じ、中世自照文学の深部的問題に関心を高めたい。

〔教科書〕 筑摩叢書『とはずがたり』（筑摩書房）

国文学特講 IV

寺田 清市

〔広津和郎研究〕

奇蹟派の作家として登場した彼が、松川裁判批判に取り組むまでの道程をたどることによってあるべき現代文学について考える。

中国文学

中村 璋八

日本文化に最も影響を及ぼした中国古典の一つ、史記を、六朝宋の集解、唐の索隱、正義の三つの注釈書に拠りながら読み、中国古典の読解力を深めると共に、中国文化と日本文化との関連をも併せて考えて行く。

〔教科書〕 プリント。

中国文学演習

飯田利行

良寛和尚の詩を演習する。昭和57年度、日展書道部の書題としてみる日中詩人のうちで良寛詩が圧倒的に多いことは、良寛詩がいかに日本人に親しまれているかを示す。

〔教科書〕 『良寛詩集譯』（大法論閣） ¥ 1,800

中国文学概論

飯田利行

大綱は、中国文学を日本文学と対比して講ずる。

細目は、文学用語の違い、漢詩の作法、鑑賞、批評の態度、基準等にわたって講ずる。

仏教概論

山内舜雄

仏陀論・仏身論を中心に仏教の基本教理を解説すると共に、その歴史的展開を概観し、各論において、各宗教学の要義を解明する。

〔教科書〕 ノート授業とする。

東洋思想研究

船津富彦

中国人の持つ独自の思想はいろいろあるが、それらの中で、非常にすぐれたものであって、日本文化にも大きな影響を与えたものに文学思想がある。本年度は上代から現代に至るまで、中国人が文学について如何に考えたか、その作品に如何なる影響を与えたか、日本文化とののかかわりについて、資料を中心にして、いろいろの点から考察してみたい。

日本史概説Ⅰ（古代・中世）

杉山博

日本古代・中世を、社会・経済史を中心として概述する。教科書はあって指示する。

日本史概説Ⅱ（近世・近代）

吉田常吉

江戸幕府の幕藩体制の成立と崩壊への推移を述べ、明治政府の成立とその中央集権的統一国家形成への過程について論述する。

日本文化史Ⅰ

圭室文雄

日本における歴史の流れを考える時、その文化現象として宗教が果たした役割はきわめて大きい。ところが現代の生活においては、冠婚葬祭を除けば我々の日常にはほとんど関係がなくなっている。それだけに我々が過去の歴史を考えると、ともすれば等閑視するきらいがある。それゆえ、ここでは古代より現代に至る生活の中で、宗教が果たした役割をあ

きらかにしたいと思う。

〔教科書〕 池田英俊, 大浜徹也, 圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』(大学教育社)

日本民俗学

山折哲雄

日本人の民族性と自我構造の特質について, 民俗学の立場から考察する。

〔教科書〕 山折哲雄『日本人の心情』(NHKブックス)

書道史

谷村義雄

中国に於ける文字創生から始まって三千年にわたる東洋独得の書道芸術の発展の歴史を通観する(前期)。

芸術としての書の自覚, とくに文人の書がいかに書芸術に開花したかについて宋元明清各代の文人の書について講述する(後期)。

〔教科書〕 『書の歴史』(二玄社) 『日本の書』(中央公論社)

〔参考書〕 『書の本』全三冊(筑摩書房)

書道実習Ⅰ

金子卓義

書の歴史を探りながら, 古典の臨書を学び, 表現技術の習得と, 書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷行草の各体の古典を広く学び, 後半は中国北魏時代の楷書「高貞碑」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅰ』〔高校用教科書 旧版〕(教育出版)

中国の書道『高貞碑』(書芸文化新社)

書道実習Ⅱ

金子卓義

書の歴史を探りながら, 古典の臨書を学び, 表現技術の習得と, 書の理解を深める。前半(9月頃まで)は楷, 行, 草の各体の古典を広く学び, 後半は中国唐時代の行草書「祭姪文稿」を細かに深く研究する。

〔教科書〕 『書道Ⅱ』〔高校用教科書 旧版〕(教育出版)

中国の書道『争坐位帳, 祭姪文稿』(書芸文化新社)

美術史概説

林良一

本年度は, 日本の古代美術史, ことに飛鳥・白鳳・天平時代の様式史的展開について講述する。寺院や遺品などのカラー・スライドを映写し, 理解を深めるように努める方針である。

美術史

谷村 義雄

中国に於ける文字創生から始まって三千年にわたる東洋独特の書道芸術の発展の歴史を
通観する（前期）。

芸術としての書の自覚、とくに文人の書がいかに書芸術に開花したかについて宋元明清
各代の文人の書について講述する（後期）。

〔教科書〕 『書の歴史』（二玄社） 『日本の書』（中央公論社）

〔参考書〕 『書の本』全三冊（筑摩書房）

現代美術

中山 典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義には
スライドを用いる。

有職故実

鈴木 敬三

武家故実を中心として講義する。弓馬軍陣を旨とする故実にみえる名称とその実体とす
る構造について、文献と遺品・絵画を基本とし、時代の推移にともなって変貌する内容を
検討して、中世の物語記録の用語に対する研究水準を紹介する予定である。

編集実務

宇賀田 達雄

将来マスコミ方面に進む場合は当然だが、一般の企業に入っても、社内報、PR誌の編
集ばかりでなく、企画書その他いろいろの文書の作成など、文章を書き、それを編集・印
刷する機会はきわめて多い。その際まず必要なことは、いかにして企画をたて、いかにし
て取材や執筆依頼をするか、集まった原稿をどのように編集し、どのようにして工場に渡
すかという知識である。また組まれた印刷物をいかに校正するかということも、一連の作
業の上で欠かせない技術である。これらのことを、実習を通して学んでみたい。

〔教科書〕 『編集校正便覧』（印刷学会出版部） ¥ 250

英米文化

金 関 寿 夫

アメリカ文化の流れを文学、美術の発展に則して考察し、とくに現代における文化の特
質を明らかにする。

〔教科書〕 不要。

〔参考書〕 最初の授業の際に示す。

英米文学科

基礎教育科目

英文学概論(三神 勲)……………	100
米文学概論(山県 敏夫)……………	100
基礎英語 I A(河崎 征俊)……………	100
基礎英語 I A(佐藤 千春)……………	100
基礎英語 I A(高野 正夫)……………	100
基礎英語 I B(A. G. Ryder)……………	101
基礎英語 I B(N. Readdy)……………	101
基礎英語 II A(岡崎寿一郎)……………	101
基礎英語 II A(兼谷 英夫)……………	101
基礎英語 II A(坂本 武)……………	102
基礎英語 II A(三好 弘)……………	102
基礎英語 II B(A. G. Ryder)……………	102
基礎英語 II B(N. Readdy)……………	102
基礎英語 II B(T. J. Wright)……………	103

専門教育科目

英語学概論(大沢 一雄)……………	104
英文学史 I(三神 勲)……………	104
英文学史 II(三好 弘)……………	104
米文学史(佐藤 千春)……………	104
英語史(岡田 尚)……………	104
音声学(坂本 武)……………	105
批評論研究(河崎 征俊)……………	105
シェイクスピア(三好 弘)……………	105
英文学演習 I(中世)(河崎 征俊)……………	105
英文学演習 II(英文学16, 17C) (三神 勲)……………	105
英文学演習 IV(英文学18C) (小林 亨)……………	105
英文学演習 V(詩19, 20C) (高野 正夫)……………	106
英文学演習 VI(小説 I 19C) (三好 弘)……………	106
英文学演習 VII(小説 II 20C) (飯島 淳秀)……………	106
英文学演習 VIII(批評19, 20C) (高野 正夫)……………	106

米文学演習 I(詩)(金関 寿夫)……………	106
米文学演習 II(小説 I)(金関 寿夫)……………	106
米文学演習 III(小説 II)(佐藤 千春)……………	107
米文学演習 IV(小説 III)(田中 剛)……………	107
米文学演習 V(批評)(赤祖父哲二)……………	107
英米演劇演習(落合 和昭)……………	107
英文学特講 I(英文学16, 17C) (石原 孝哉)……………	107
英文学特講 II(英文学18C)(小林 亨)……………	107
英文学特講 III(詩19, 20C) (河崎 征俊)……………	108
英文学特講 IV(小説 I 19C) (伊藤 廣里)……………	108
英文学特講 V(小説 II 20C) (飯島 淳秀)……………	108
英文学特講 VI(批評19, 20C) (武田 勝彦)……………	108
米文学特講 I(詩)(金関 寿夫)……………	108
米文学特講 II(小説 I)(佐藤 吉介)……………	109
米文学特講 III(小説 II)(田中 剛)……………	109
米文学特講 IV(小説 III)(田中 剛)……………	109
米文学特講 V(批評)(佐藤 吉介)……………	109
英米演劇特講(落合 和昭)……………	109
英米語学演習(英語学)(大沢 一雄)……………	109
英米語学演習(英語史)(繁尾 久)……………	110
英米語学演習(英文法)(岡田 尚)……………	110
英米語学演習(英作文)(佐藤 千春)……………	110
英米語学演習(英作文)(坂本 武)……………	110
英米語学演習(英作文)(河崎 征俊)……………	110
英米語学演習(英作文)(高野 正夫)……………	110
英米語学演習(英会話)(N. Readdy)……………	111
英米語学演習(英会話) (W. D. Hubbard)……………	111
英米語学演習(英会話)(T. J. Wright)……………	111
英米文化(金関 寿夫)……………	111
時事英語(大沢 一雄)……………	112
商業英語(青山 則雄)……………	112
ラテン語特講(佐藤玖美子)……………	112
日本文化史 I(圭室 文雄)……………	112
現代美術(中山 典夫)……………	112

英 米 文 学 科

基礎教育科目

英 文 学 概 論

三 神 勲

英文学入門の科目です。古代、中世、近代の英文学について作品を中心にして話します。同時に英文学のさまざまなジャンルについても講義します。英文学における重要な作品をいくつか選んで、読んでもらいます。

米 文 学 概 論

山 県 敏 夫

アメリカ文学における代表的作家とその作品について概説します。思潮や時代の特徴などによって大別し、その中で作家作品の位置づけをします。例えば“ピューリタニズム”、“フロンティア・スピリット”、“ロースト・ジェネレーション”、“黒人文学”、“ユダヤ系作家”などに分類して概説します。

〔教科書〕 学年始めに指定します。

基 礎 英 語 I A

河 崎 征 俊

基本的英作文の演習を通し、高度な英文読解に慣れることを目標とします。辞書類は常に授業時で用いますので必ず携帯すること。

〔教科書〕 開講時に指示します。

基 礎 英 語 I A

佐 藤 千 春

英語の基礎力を養成することに主眼を置いて授業をすすめて行きます。テキストは開講時に連絡いたします。

基 礎 英 語 I A

高 野 正 夫

誤り易い文法の用例を実際に問題として取り上げながら授業を進めて行く予定。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 I B

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English.

This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, Word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基礎英語 I B

N. Readdy

The textbook used in this class [ENGLISH 900] is an audiolingual method and requires tapes [about 15 minutes per class] as well as class participation, both group and individual. ENGLISH 900 implies the 900 sentences which are considered essential for speaking every day English. The student will be drilled in the sentence patterns contained in this book until he can use them with ease as well as make substitutions using the sentence base as a guide. There will be two examinations each school year. Students are required to attend both.

TEXTBOOK : ENGLISH 900. BOOK 3. COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL The English 900 series consists of 6 books with 10 chapters per book. In this class we will be using Book 3 only.

基礎英語 II A

岡崎 寿一郎

カセット・テープの使用によるヒヤリングの実習を通して基礎的な英語力の養成を目指す。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語 II A

兼谷 英夫

教室にて指示します。

〔教科書〕 教室にて指示します。

基礎英語ⅡA

坂本 武

この科目は、Reading や Translation を対象とするものではない。時事文の各種や、放送英語、更に会話文を、テープを主体とした講義の流れの中で、十分に学習するのが目的である。いわゆる読んで訳してこれをとらない。耳訓練を通じてナマの英語に接するのがこの講義であるを充分理解しておいてほしい。

〔教科書〕 教場にて指示する。

基礎英語ⅡA

三好 弘

ヒアリングを中心にしながら、早く上手に訳せるような授業のすすめ方をする予定である。教材としては実際のインタビューをしたものが、放送されたものを使っていく。

基礎英語ⅡB

A. G. Ryder

The primary aim of this course is to enable every student to make as much progress as possible in his/her ability to communicate effectively in English. This implies not only ability to express one's meaning clearly in English, but also ability to understand native speakers of English. To achieve this aim, constant drill and exercises, both group and individual will be provided in pronunciation, intonation, word-grouping, tempo and stress, and other factors.

The pace in all of my classes is fast and challenging with all of the students participating actively all of the time. Therefore, motivation is one of the prime requisites. ENGLISH will be the ONLY language spoken in the classroom.

Text to be announced later.

基礎英語ⅡB

N. Readdy

The general outline of the course is the same as that given for English 900, Book 3 except it is of a more advanced nature.

This course consists of exercises in everyday English using tapes [about 15 minutes] and individual participation. Examination requirements are the same as those in conversation I.

TEXTBOOK : ENGLISH 900 Book 4 COLLIER MACMILLAN INTERNATIONAL.

The goals of this course are many.

- 1) To introduce a firm, oral pronunciation program, which will daily reinforce the students in clear concise pronunciation of the English language.
- 2) To work on the student's oral/aural conversation ability in the English language. This will be accomplished by use of textbooks, films, slides, tapes, drills and discussions.
- 3) To improve the student's ability in reading, I will be using teaching materials from various TEFL. (Teaching English as a Foreign Language) reading selections.
- 4) To enhance the student's awareness of crosscultural communication, I feel it vital to these young people and to the university to make every effort in making them psychologically and emotionally aware of their role within the Japanese society and the world.

[教科書・参考書] 教場にて指示する。

専門教育科目

英語学概論

大沢 一雄

英語学とはどういう学問であるか、一口にいえば、それは、英語という言語を研究の対象とする学問であるから、それは、言語について研究する学問すなわち言語学の一部であることは、いうまでもない。すなわち、英語学は英語という言語を研究する言語学なのである。「英語学」が英語で English philology とか English linguistics といわれることは、そのことをよく示している。

ところで、言語学は、音声学、音韻論、文法論、意味論、文体論、語源論、辞書編纂論、言語史等の諸部門に分かれる。したがって、英語学の研究も、結局これらの部門のどれかについておこなわれることになるのであるが、そういう各論的な研究に入る前に、英語学という学問について、英語という言語について、一般的、総論的な知識をもつことも必要なことといわなければならない。「英語学概論」の講義は、英語学や英米文学を勉強しようという学生諸君のために、そのような概説的な知識を提供しようとするものである。

英文学史 I

三神 勲

Old English 時代から Middle English 時代を経て Elizabethan Age までの英文学の歴史を講義する。作家、作品が中心になるが、社会や時代や外国文学にも注意を払いたい。

英文学史 II

三好 弘

近代英文学を読者の立場からみつめていく。もちろん、従来の作家とか時代中心のとりえ方もふれていくが、中心は人間関係とか自立とかふれあいという新しい角度からスポットをあてていく予定である。

米文学史

佐藤 千春

時代思潮、各作家の文学史上における位置、その価値、特徴となる中心思想、代表作などにふれてみる。

〔教科書〕 井上謙治『アメリカ文学史入門』（創元社）

英語史

岡田 尚

今日の英語に親しんでいる人には他国語のような感じのする古英語の時代から、一千余

年の間に、英語がどのように変化してきたか、その主要な流れを概観する。

〔教科書〕 プリント使用。

音 声 学

坂 本 武

調音音声学の概要について、英語を主体とした流れの中で学習することが、本講義の内容である。今更自己流の発音がなおせるかな……ではなくて、英米文学科生は徹底的にこれを第一歩から修正する必要がある。英語の母音、子音からはじめて、各論に至る迄知識を得てほしいものである。英語を専攻して native の、発音が判らない、したがって自己の考えも表現不可能では困るのである。積極的に受講してほしい。

〔教科書〕 教場にて指示する。

批 評 論 研 究

河 崎 征 俊

現代批評についての概説からはじめて、詩の批評について述べて行きます。

〔教科書〕 開講時に指示します。

シェイクスピア

三 好 弘

当時の時代の背景とか劇場にふれながら、シェイクスピアが日本という文化でどのようにとらえられてきたかを中心に話していく予定である。

英 文 学 演 習 I (中世)

河 崎 征 俊

チャオサーの作品を読みます。後期にはチャオサーにかんする批評書もあわせて読む予定です。

〔教科書〕 Robinson 版をコピーにして使用します。

〔参考書〕 開講時に説明します。

英 文 学 演 習 II (英文学16, 17C)

三 神 勲

シェイクスピアの *Romeo and Juliet* 「ロミオとジュリエット」を読みます。この演習でシェイクスピアの英語を理解するとともに戯曲の読み方を学びたい。テキストは英国のアーデン版を準備します。

英 文 学 演 習 IV (英文学18C)

小 林 亨

Laurence Sterne: *The Life and Opinions of Tristram Shandy, Gentleman* を読む。幻の奇書といわれたこの難解の書も、教室用テキストの出現によって、その特質をう

かがい知れるようになった。異常に小説の好きな篤学の受講生を求む。

〔教科書〕 『研究社小英文叢書』 ¥ 590

英 文 学 演 習 V (詩19, 20C)

高 野 正 夫

The Auden Generation の中心人物であるオーデンをとりあげ、「危機と失意の時」と呼ばれた1930年代を常に放浪者として生きたオーデンの、1939年以降の詩を読んでいく予定。

〔教科書〕 教室にて指示する。

英 文 学 演 習 VI (小説I 19C)

三 好 弘

ディッケンズの *David Copperfield* を読んでいく予定。多少、長い小説であるが、ディッケンズの最大傑作だけでなく、英文学のなかでも小説としては代表的なものであるため、これを読むことにした。

英 文 学 演 習 VII (小説II 20C)

飯 島 淳 秀

現代英国小説を読むが「演習」の字義通りに毎回学生に当てて、やってもらう。他に前期と後期に各一回、課題リポート(単位リポート)の提出が必ず要求されるので特に留意してほしい。テキストは教室で指示する。

英 文 学 演 習 VIII (批評19, 20C)

高 野 正 夫

19, 20世紀の批評の流れについて、またそれぞれの時代の代表的な批評家について書かれたものを読みながら、批評の原型について考えていく予定。

〔教科書〕 教場にて指示する。

米 文 学 演 習 I (詩)

金 関 寿 夫

(アメリカ現代詩)

アメリカ現代詩の成立と発展を実作を熟読しながら考察する。

〔教科書〕 *Sixteen Modern American Poets* N. Pearson, Kanaseki 編 (英宝社)

〔参考書〕 最初の授業の際に示す。

米 文 学 演 習 II (小説I)

金 関 寿 夫

アーネスト・ヘミングウェイの短篇と長篇の一部を味読しながら、主としてこの作家の文体を考察する。

〔教科書〕 海老根静江編 “Ernest Hemingway” (山口書店)

〔参考書〕 最初の授業で提示。

米文学演習Ⅲ(小説Ⅱ)

佐藤千春

未定。授業開始時に連絡いたします。

米文学演習Ⅳ(小説Ⅲ)

田中剛

「ウィリアム・ウィルソン」、「リジリア」、「アッシャー家の崩壊」、「メエルシュトレムに呑まれて」の四短篇小説を、ポオの他の作品との関連を考えつつ、精読する。

〔教科書〕 *Edgar Allan Poe at his Best* (南雲堂)

米文学演習Ⅴ(批評)

赤祖父哲二

20世紀アメリカ短篇小説を読む。

〔教科書〕 *Great American Writeis* (英潮社)

英米演劇演習

落合和昭

アメリカ現代劇の代表的劇作家であるユージン・オニール、ソーントン・ワイルダー、テネシー・ウィリアムズ、ウィリアム・インジ、エドワード・オルビーの一幕劇を読みます。一幕劇の上演時間は、たいてい、20分から1時間ぐらいと短かいのが特徴で、小説でいえば、短篇小説にあたるものです。一幕劇というと、日本人にはなじみがうすいかも知れませんが、欧米では、ほとんどの現代劇作家は一幕劇を書いています。

クラスでは、毎回、学生に読んでもらい、前期と後期に、それぞれレポート(5枚以上)の課題を出します。

〔教科書〕 (1)『アメリカ一幕劇集』(開文社) ¥ 600

(2)『続アメリカ一幕劇集』(開文社) ¥ 850

英文学特講Ⅰ(英文学16, 17C)

石原孝哉

イギリスルネッサンスの文学について講義する。前期はルネッサンスの概観および16世紀の文学について論じ、後期はシェイクスピア、ミルトンを含めて17世紀文学について論じる。シェイクスピアについては、批評理論に焦点をあてて講義する。

〔教科書〕 『煉獄の火輪』(れんが書房新社)プリント。

〔参考書〕 教場にて指示。

英文学特講Ⅱ(英文学18C)

小林亨

16世紀末より18世紀半ば頃までの、イギリス小説発達の歴史を概観するが、講義だけでなく出来る限り原文を鑑賞していきたい。例年肝心の18世紀に時間が足りなくなるので、

本年は16～17世紀を簡略化する予定。

〔教科書〕 コピー（無料）。

英文学特講 III（詩19, 20C）

河崎 征俊

昨年に続き現代英詩について講義します。

英文学特講 VI（小説I 19C）

伊藤 廣里

イギリスの19世紀の時代思潮を考えながら、その時代の大御所である Charles Dickens をはじめ、その周辺の作家の小説をとりあつかう。講義が進んでからは、短篇か、あるいは、アンソロジーによって、原文をも味読する予定である。

〔教科書〕 教室で発表する。

英文学特講 V（小説II 20C）

飯島 淳秀

現代英文学について Psychological Novel, Critical Biography, その他の題目について講義する予定。前期と後期にそれぞれ（つまり年2回）課題リポート（単位リポート）の提出が必ず要求されるので留意しておくこと。出席も重視される。テキストは用いない。

英文学特講 VI（批評19, 20C）

武田 勝彦

英文学批評の源泉となった古典の批評より論述し、近代批評の発展を概観する。浪漫主義批評の系譜から人文主義、自然主義批評への軌跡を追う。この過程においてヨーロッパ文学の批評論との相互影響関係、日本文学の批評論との対比問題も扱う。

後期は主として分析批評をはじめとし、20世紀批評の諸問題を対象とする。特に、時間・性などを重視した批評のあり方の内在的な意味を掘り起こし、文芸批評のあるべき方向を明確に示唆することに主眼を置くことにしたい。

〔教科書〕 『基本文芸用語辞典』（荒竹出版） ¥ 1,800

〔参考書〕 『日本文学問はず語り』（東京書籍） ¥ 980

米文学特講 I（詩）

金関 寿夫

（T. S. エリオット）

現代詩人としてのエリオットの功績をその実作と詩論を通して考察する。

〔教科書〕 川崎寿彦編 “T. S. Eliot” 京都（山口書店）

〔参考書〕 最初の授業の際示す。

米文学特講 II (小説I)

佐藤吉介

アメリカ19世紀の作家アーク・トゥイン (Mark Twain), ホーソン (Hawthorne), A. ビーアス (A. Bierce) などの作品を教材とし, 作家の表現理論, 文体, 手法, 構成, 作風などを考察する。

〔教科書〕 プリント。

米文学特講 III (小説II)

田中 剛

『偉大なギャッビー』を主として, 1920年代のアメリカ小説に言及しつつ, ジャズ・エイジの文学状況を考察する。

〔教科書〕 英宝社ペンギン・ブックス『偉大なギャッビー』(英潮社新社)

米文学特講 IV (小説III)

田中 剛

『緋文字』を中心に, ホーソンの長篇小説, 『七破風の屋敷』, 『プライズデイル・ロマンス』, 『大理石の牧羊神』を考察する。

〔教科書〕 『詳注 緋文字』(南雲堂) ¥ 1,800

米文学特講 V (批評)

佐藤吉介

文学作品における批評の方法を概観的に論述し, その理論を活用して作品にアプローチする方法, 更に鑑賞する実用面を兼ねて実践する。

作品はアメリカ文学の十九世紀の作品を用いる。

〔参考書〕 プリント。

英米演劇特講

落合和昭

劇と他の文学形式(小説, 随筆, 詩)との相違, 劇の種類(悲劇, 喜劇, 不条理劇等), 劇の要素(ダイアログ, プロット, 登場人物等)をアメリカの大学で使用されている文学のテキスト(プリント)を通して考察しながら, 数人の批評家(アリストテレス, エリック, ベントリー等)の劇に対する見方を学びたいと思います。

また, 学生には, 前期と後期にそれぞれレポート(5枚以上)を課題として出し, 構成のまったく異なった一幕劇(2篇)について, 批評してもらいます。

〔教科書〕 プリント。

『あるマドンナの肖像』ほか(弓書房) ¥ 580

英米語学演習(英語学)

大沢 一雄

Good English, bad English とはどうか, とくに, 口語体の英語について考

えてみる。テキストには、いくつかの one-act plays を用いる。

英米語学演習（英語史）

繁尾久

英語の先史時代、古期英語、中期英語、近代英語の各期の言語的特色を考察する。

〔教科書〕 R. C. Bambas 著『The Origin and History of the English Language』
（金星堂） ¥ 2,200

〔参考書〕 岡田・郡詞訳・モッセ『英語史概説』（開文社） ¥ 1,500

英米語学演習（英文法）

岡田尚

生きた英文に接しながら、伝統的な文法の知識を確認するとともに、どのような文法がよいかを考えてみたい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（英作文）

佐藤千春

英文を書くことによって、英語の総合力の増進をはかりたい。積極的に発表し質問をして活気のある授業にしてほしい。

〔教科書〕 教室で指示する。

英米語学演習（英作文）

坂本武

時事英作文を主体とし、適宜一般文のそれを加味する。又、就職試験問題を意識した演習にも取り組むつもりである。実用手紙文もいがかかと思っている。積極的に受講してほしいものである。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習（英作文）

河崎征俊

簡単な英文を習得することから、高度な英作文へと進めて行きます。予習が必要ですから、授業を休まないことが肝心です。

〔教科書〕 開講時に指示します。

英米語学演習（英作文）

高野正夫

文法的な面にも目を向けながら、作文の演習を進めて行きます。

〔教科書〕 教場にて指示する。

英米語学演習 (英会話)

N. Readdy

Same as Page 72. However, if the majority of students in this class have already completed ENGLISH 900 Book 4, we will proceed with Book 5.

英米語学演習 (英会話)

W. D. Hubbard

The ability to communicate in English is a very useful ability to have. Communication is an exchange of ideas. For successful spoken communication in English you must both speak and be understood, and listen and understand. This result oriented course, based on effective linguistic methods, is designed to help you acquire those skills needed for successful communication in English. The text for this course will be tentatively the *New English* 900, book 4 in addition to supplementary material.

英米語学演習 (英会話)

Timothy. Joseph Wright

The goals of this course are many.

- 1) To introduce a firm, oral pronunciation program, which will daily reinforce the students in clear concise pronunciation of the English language.
- 2) To work on the student's oral/aural conversation ability in the English language. This will be accomplished by use of textbooks, films, slides, tapes, drills and discussions.
- 3) To improve the student's ability in reading, I will be using teaching materials from various TEFL (Teaching English as a Foreign Language) reading selections.
- 4) To enhance the student's awareness of crosscultural communication, I feel it vital to these young people and to the university to make every effort in making them psychologically and emotionally aware of their role within the Japanese society and the world.

〔教科書・参考書〕 教場にて指示する。

英米文化

金 関 寿 夫

アメリカ文化の流れを文学, 美術の発展に則して考察し, とくに現代における文化の特質を明らかにする。

〔教科書〕 不要。

〔参考書〕 最初の授業の際に示す。

時事英語

大沢 一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等の mass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

商業英語

青山 則雄

我が国企業の国際ビジネス活動は日本を中心とした輸出入から、三国間取引、対外直接投資など複雑・高度なものへと拡大・質的転換しつつある。したがって商業英語もこのようなニーズに応えなければならない。このことを念頭において、1年間に次のことを実行したい。前期は貿易取引のプロセスを理解し、英文メッセージをビジネスに適した日本語で表現する練習。短い英文ライティングの作成。後期はビジネス・ニュース、レポートの書き取り、現実に即した英文レターを正式なフォームでタイプ仕上げすること。受け身でなく、積極的に行動し両面交通の授業とすることに協力してくれる受講者を望む。

〔教科書〕 斎藤祥男『国際貿易英語通信』（梓出版社）

ラテン語特講

佐藤 玖美子

本講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパの言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的とするものである。まだやさしいラテン語で書かれた物語りの講読をもあわせて行う。

〔教科書〕 樋口勝彦・藤井昇著『詳解ラテン文法』（研究社）

日本文化史 I

圭室 文雄

日本における歴史の流れを考える時、その文化現象として宗教が果たした役割はきわめて大きい。ところが現代の生活においては、冠婚葬祭を除けば我々の日常にはほとんど関係がなくなっている。それだけに我々が過去の歴史を考えると、ともすれば等閑視するきらいがある。それゆえ、ここでは古代より現代に至る生活の中で、宗教が果たした役割をあきらかにしたいと思う。

〔教科書〕 池田英俊・大浜徹也・圭室文雄編『日本人の宗教の歩み』（大学教育社）

現代美術

中山 典夫

印象主義にはじまる現代美術の流れを、絵画作品を中心にして、追ってゆく。講義にはスライドを用いる。

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎地理学(人文地理学)(今朝洞重美)	114
基礎地理学(人文地理学)(長野 覚)	114
基礎地学(自然地理学)(長沼 信夫)	114
基礎地学(自然地理学)(早船 元峰)	114

専門教育科目

人文地理学実習(上野 福男)	115
人文地理学実習(桜井 正信)	115
人文地理学実習(葵口 善美)	115
人文地理学実習(長野 覚)	115
自然地理学実習(長沼 信夫)	115
自然地理学実習(高木 正博)	116
自然地理学実習(早船 元峰)	116
野外巡検Ⅰ(上野 福男)	116
野外巡検Ⅰ(今朝洞重美)	117
野外巡検Ⅰ(小池 一之)	117
野外巡検Ⅰ(長沼 信夫)	117
野外巡検Ⅰ(高木 正博)	117
日本地誌Ⅰ(今朝洞重美)	117
外国地誌Ⅰ(葵口 善美)	117
経済地理学Ⅰ(赤川 泰司)	117
郷土地理学(長野 覚)	118
集落地理学(小川 徹)	118
地形学Ⅰ(西村 嘉助)	118
地 図 学(高木 正博)	118
交通地理学(奥野 隆史)	118
地理学総論(小川 徹)	119
地理学総論(西村 嘉助)	119
野外巡検Ⅱ(小川 徹)	119
野外巡検Ⅱ(葵口 善美)	119
野外巡検Ⅱ(桜井 正信)	119

野外巡検Ⅱ(西村 嘉助)	119
野外巡検Ⅱ(長野 覚)	119
野外巡検Ⅱ(早船 元峰)	120
日本地誌Ⅱ(早船 元峰)	120
外国地誌Ⅱ(宮口 侗勉)	120
経済地理学Ⅱ(生井澤 進)	120
地形学Ⅱ(小池 一之)	120
歴史地理学(桜井 正信)	120
人口地理学(上坂 修夫)	120
原書講読(上野 福男)	121
地球物理学(木澤 綏)	121
地 質 学(大森 五郎)	121
土壤地理学(漆原 和子)	121
海洋学及陸水学(長沼 信夫)	121
気 候 学(中村 和郎)	122
日本地誌Ⅲ(中島 義一)	122
外国地誌Ⅲ(梅原 弘光)	122
都市地理学(今朝洞重美)	122
計量地理学(奥野 隆史)	122
応用地理学Ⅰ(高木 正博)	122
応用地理学Ⅱ(今野 修平)	123
文化地理学(葵口 善美)	123
空中写真判読法及測量学(小池 一之)	123
地理学特講Ⅰ(長野 覚)	123
地理学演習(小川 徹)	124
地理学演習(上野 福男)	124
地理学演習(今朝洞重美)	124
地理学演習(葵口 善美)	124
地理学演習(小池 一之)	124
地理学演習(桜井 正信)	124
地理学演習(西村 嘉助)	124
地理学演習(長沼 信夫)	125
地理学演習(高木 正博)	125
地理学演習(長野 覚)	125
地理学演習(早船 元峰)	125

地 理 学 科

基礎教育科目

基礎地理学（人文地理学）

今朝洞 重 美

地理学的な「見方」「考え方」とはどのようなものであるか、について具体的に究明、討議する。

基礎地理学（人文地理学）

長 野 寛

世界的視野において、自然と人間活動の相関性を考えながら、多彩な人文現象の基礎知識を、系統地理的に講義する。テキストは下記のほか、適宜プリントで補足する。受講に際しては地図帳の併用を心掛けること。

〔教科書〕 藤岡謙二郎『人文地理学』〔五訂版〕（大明堂） ￥ 1,300

基礎地学（自然地理学）

長 沼 信 夫

本講義は地理学を専攻する学生諸君のために、自然地理的な立場から基礎的知識を提供しようとするものである。今年度も下記のテキストを使用し、第四紀時代の自然環境の変遷について講義する。

〔教科書〕 『自然環境の生い立ち』（朝倉書店）

基礎地学（自然地理学）

早 船 元 峰

地質年代では最も新しく、かつ、人間と密接なかかわりあいをもつ第四紀の自然環境について講義する。

専門教育科目

人文地理学実習

上野 福男

人文地理学を第一次生産部門から第三次生産部門までふくめての経済地理学の分野、並びに集落地理学、都市地理学、人口地理学の諸分野について、それぞれの分野で用いられる統計資料を示し、学生各自に題目を選定させ、それについての図的表現を試みさせる。できあがった図表に説明をつけさせる。以上の実習を通じて人文地理学の理解を増進させる。

人文地理学実習

桜井 正信

人文現象を総合学の立場で実習させていくが、とりわけ地図化することに重点を置く。必要参考文献は、そのつど指示し、実習の成果をあげるようにする。

人文地理学実習

菱口 善美

この実習は、人文地理学の諸分野において用いられている技術的表現の理解、および基礎的諸作業の修得を目的としている。実際の授業内容は次の通りである。すなわち、(1)人文地理学にとって基礎的な統計図表に関する講義、(2)産業や人口に関する統計資料の収集、整理および図表化作業の修得、(3)地域を選定し、その地理学的説明のための図表およびレポートの作成、(4)一定地域の変化をテーマとして、種々の資料にもとづくレポートの作成。

人文地理学実習

長野 覚

前期は地形図の読図に習熟するよう、土地利用図・地形段彩図などを作成し、空中写真なども併用して人文現象と自然条件の相関性を考察する。後期は各自で収集した統計資料をもとにして、各種の統計地図類を作成することにより、主として人文現象の図化を習得する。

自然地理学実習

長沼 信夫

この実習は自然地理的な立場から、専門領域を深めるために必要な基礎的諸作業を修得する目的で実施する。実習を通じて種々の資料の蒐集・整理、その結果から図表等の表現化、作成した図表からその読み方などを実施する。また野外調査の際に必要な技術的作業等の方法についても実習する予定である。

出席を重視し、平常点（レポート、図表等の提出物）で評価する。

〔参考書〕 谷岡武雄他著『新訂 地理実習』〔人文地理ゼミナル〕（大明堂）
三野与吉『自然地理調査法』（朝倉書店）

自然地理学実習

高木正博

自然地理学を研究するうえで必要となる基礎的な諸事項の修得を目的とする。その手段として、各種の作業を実施してもらう。作業内容については、つぎのことがらを予定している。

- (1) 市販の地形図、空中写真などを利用し、各種の主題図を作成する。
- (2) 各種の統計資料を収集整理し、それらを図化する。
- (3) その他、進捗状況に応じて指示する。

評価に際しては、提出物と出席の状況を重視する。

自然地理学実習

早船元峰

地理学を修める上に必要な自然関係の基礎的作業を中心に行なう。

前期

- 図上作業（切断面図・起伏量図・帯状平行投影地形断面図等の作成）
- 資料の収集・整理・分析の方法
- 調査器械・器具の使用法

後期

- 粒度分析
- 空中写真の判読（土地利用図・地形学図・標定図作成）
- 水の調査（湖水・河川水・地下水の水温、水質等）
- 微地形・表層地質調査（元荒川・古利根川流域）

野外巡検Ⅰ

上野福男

ハッ岳西麓地域と諏訪盆地の最近の地域変貌

上述地域の産業の推移と観光業に焦点をおき、以下の諸項目について研究する。調査項目は希望にしたがい変更も可

1. ソサイ、カキを中心とする高冷地園芸
2. セカンドハウスの開発と民宿
3. 温泉と観光業
4. 富士見の交通路の変遷と産業
5. スワ湖の最近の変貌と利用
6. 湖岸三市の工業の特色比較等

野 外 巡 検 I

今朝洞 重 美

北陸地方の巡検を行う。実施時期は5月(連休)。まだ北陸に行ったことのない人を対象とする。

野 外 巡 検 I

小 池 一 之

2年次学生を対象とする。野外調査方法の習得を中心とする巡検である。

- (1) 巡検地域 未定(候補地:那須野ヶ原など)
- (2) 巡検期間 昭和58年6月末~7月初
- (3) 巡検内容 自然地理学(地形学)の基礎的な野外調査法の習得

野 外 巡 検 I

長 沼 信 夫

次の要領で行う予定であるが、詳細についてはガイダンス(申込)の際に発表する。

- (1) 巡検地域:静岡県伊豆地方
- (2) 巡検期日:昭和58年6月上旬(3泊4日)
- (3) 巡検内容(テーマ):伊豆の一地域を事例として基礎的調査的調査を行う。

野 外 巡 検 I

高 木 正 博

地域の実態調査をとおして、それぞれの地域が有する自然的・人文的な特長の一端を明らかにしたい。

現地では、班別に行動し、各種の実測調査や聞き取り調査などを実施する。

具体的な地域、期日などについては、おって発表する。

日 本 地 誌 I

今朝洞 重 美

地誌学の本質論を考察しながら、「日本」および「日本各地方」の個性を追求する。

[参考書] 藤岡謙二郎『日本地誌』(大明堂)

外 国 地 誌 I

菱 口 善 美

本講義では、『地域』の概念について述べ、次に具体的地域区分の方法を吟味し、さらに北米の「地誌」を概説する。都市の発生的、地域論的立場に重点を置く。

経 済 地 理 学 I

赤 川 泰 司

1. 農業発達史を概観し、地理学の本質を考察しつつ農業地理学の発展を学説史的にたどってみる。

2. 世界農業地域の把握を、ホイットルセー、グリッグコストロヴィッキーなどの諸説を通して検討する。
 3. 日本における農業地理学の発展をたどり、日本の農業（食糧）及び農業地域について、実証的研究成果を通して考察する。
 4. 開放経済体制下における世界農業（地域）及び食糧問題について考察する。
- 〔教科書〕 特に予定していないが、講義にそってプリントを作成し配布する。
 〔参考書〕 参考文献をその都度紹介する。

郷土地理学

長野 覚

郷土地理学の概念を求めて過去から現在までの推移を学習し、自然・歴史・民俗・現代社会などを総合した地理的視野から、郷土地理学の意義やその方法論などを探究する。以上を概観したのち、郷土地理研究の素材として、地名（大字・小字）や山岳信仰等について、全国的視野から郷土に存在するものの位置づけやその意義などを考える。

〔教科書〕 藤岡謙二郎『日本の地名』（講談社現代新書） ¥ 350

〔参考書〕 鏡味完二・鏡味明克著『地名の語源』（角川書店） ¥ 1,350

集落地理学

小川 徹

居住の地理学という観点から、民家と村落構成の両側面について講義する。プリント・テキストは開講後指示する。巡検もその趣旨に沿って行うので、小川巡検を希望するものは、この科目を選択しておいて欲しい。

地形学 I

西村 嘉助

地形学の基礎的な部分を講義する。営力地形学から発達地形学に亘る解説を行う。

〔教科書〕 西村嘉助『自然地理学Ⅱ』（朝倉書店）

地図学

高木 正博

まず、地図の歴史をとおして、地図の重要性を認識する。つぎに、地図の作成、表現方法などのちがいがいによる多様な地図をもとに、解読、利用法について考える。

授業内容に応じて実習を伴うので、定規、コンパス、分度器を揃えてほしい。

交通地理学

奥野 隆史

交通地理学の必要性及び基礎的諸概念の説明から、(1)交通現象の空間的意味合い、(2)交通の発達と地域との関係、および (3)交通地理学的諸モデル、などについて論述を行なう。

〔教科書〕 『地域交通論』 (大明堂), ¥ 2,200

〔参考書〕 『点と線の世界—ネットワーク分析』 (三共出版) ¥ 1,200

地 理 学 総 論 小 川 徹

詳細は開講直後に指示する。講義の趣旨は「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も、このテーマに沿って、考えてみて欲しい。

旧科目(地理学研究法及び地理学史)未履修者はその対策について教務部担当者に相談すること。

地 理 学 総 論 西 村 嘉 助

詳細は開講直後に指示する。「地理を学ぶとは如何なることか」を考えてゆくことである。各自も充分考えてほしい。旧科目(地理学研究法及び地理学史)未履修者は上と同じ。

野 外 巡 検 II 小 川 徹

開講後掲示して発表するので注意されたい。

野 外 巡 検 II 菱 口 善 美

目 的：地域の変貌についての実態把握

調査地：未定 (ガイドンスの際に発表)

野 外 巡 検 II 桜 井 正 信

地域現象の歴史と地理的条件を、その地域で確認する立場で巡検する。巡検地はガイドンスの際に発表する。

野 外 巡 検 II 西 村 嘉 助

初夏の数日間、東北地方の一地域を選び、終始徒歩で野外調査の基礎を訓練する。対象は主として自然地理学の問題である。地形学Ⅰを受講し合格した者でないとならば参加の意味がない。

野 外 巡 検 II 長 野 覚

奈良盆地から吉野を経て大峯山まで登頂する。主な視点は平城京遺構と現代都市奈良。宗教都市天理。史跡・観光の吉野、現代社会に生きつづける大峯山の山岳信仰などを考察する。実施時期は6月上旬または7月下旬。

野外巡検Ⅱ

早船元峰

教室の講義のみでは理解しがたい地理学的事象（自然的・人文的）を、学生自らの現地での体験（観察・調査）を通じて理解させる。班別行動・現地集合・現地解散の予定。巡検地は追って発表する。

日本地誌Ⅱ

早船元峰

若干の地域を選び、そこでの自然の人間への影響、人間の自然へのはたらきかけについて論じ、地形図の作業をまじえ自然地誌的観点に立って「地域」の個性をみていく。

外国地誌Ⅱ

宮口侗廸

ECの本質的理解を通じてヨーロッパ的なものを理解するようにつとめたい。いくつかの英文文献から抜粋したものを使用して授業を進めるが、受講者は予習・報告等を通じて積極的な参加が要求される。

経済地理学Ⅱ

生井澤 進

中小企業の動向と地域経済の発展について主として地方中小都市の事例を中心として行なう。

地形学Ⅱ

小池一之

地形学の進歩はめざましい。本講義では、内外での最新の研究成果を紹介する。講義はプリントを中心に進める。英文論文の輪読も行うので、地形学に興味をもち英語に自信のある学生諸君の受講を望む。

歴史地理学

桜井正信

歴史と地理を、実証と理論に基礎をおいて、総合的にみていく。

人口地理学

上坂修夫

人口現象は、周知の通り社会地理、文化地理、歴史地理、経済地理などの重要な構成要素であるが、それは単に量として捉えるだけでなく、質的に深くほりさげることが必要である。この講義では、人口の分布や移動に関する従来の研究を跡づけながら、人文地理の諸分野において人口現象をいかに消化すべきかを考えるとともに、いままで地理学ではあまり活用されていなかった人口の地域的分析に関する種々の考え方や手法の説明も加

え、人口現象にみられる一般的法則性と地域的特性とのかかわり合い方について考えていく予定である。

原 書 講 読

上 野 福 男

適当な英語の地理学文献を選び輪読形式で講義を進める。本来は、Murphey, R.: The Scope of Geography を主要なものとして採用する。英語の文献に親しめるようにする。

地 球 物 理 学

木 澤 綏

地球潮汐の起因原理と大規模直下地震・火山活動等、今明日的予知問題、併せて地球物理学上の真理を学ぶ。即ち大学正門基点に生起成立する Earth Tide の理論値を、高性能電算機で求め、宇宙理論と実測の真値を生きた文明要素に就いて学ぶ。

地球振動、弾性波動、Q値、G・factor (各国の値)、Magnetic Fossils, Drift of India, England rotated clockwise, Thermal Convection in the Mantle, Revolution in Earth Science 等を講義する。

地 質 学

大 森 五 郎

本講義に於ては、緒論として地質学発達史の概要について述べ、ついで地殻を構成する物質としての岩石地質学を論じ、つぎに構造地質学、動力地質学、地史学、応用地質学、日本の地質構造の大綱を説き、更に地下資源を伴う鉱床地質学に論及し、併せて近年著しい発達をとげた物理、化学探査法並に同位体地質学について詳述する。

土 壤 地 理 学

漆 原 和 子

気候、植物などのちがいによって生成される土壌型が異なることについてのべ、さらに、それらの型の地理的な分布について考察する。また、土壌とその生成時間について考察し、地質時代に生成された土壌の諸例をあげ、古環境の指標としての役割について論ずる。

〔教科書〕 多田文男監修、地学団体研究会編『地形と土壌』〔新地学教育講座9〕

(東海大学出版会) ¥ 1,600

海洋学及陸水学

長 沼 信 夫

水を研究対象としている学問分野はいろいろあるが、ここでは自然地理学の立場から水に関するテーマを選び講義していく。また隣接分野の水の研究についても紹介する予定である。

〔教科書〕 『海洋と陸水』〔新地学教育講座10〕（東海大出版会）

〔参考書〕 『陸水』〔地球科学講座10〕（共立出版）

気 候 学

中 村 和 郎

気候の諸要素（日射，気温，降水，風など）について基本的な知識を学習したうえ，主として大気循環に注目して，世界各地の気候，日本の気候，および気候変動の諸問題を考えてみたい。

日 本 地 誌 Ⅲ

中 島 義 一

歴史地理学上の諸問題に重点をおいて講義する。下記教科書のほか，地図帳（高校生の時使用したものでよい）を忘れずに持ってくること。

〔教科書〕 矢守一彦『空からみた歴史景観』（大明堂）

外 国 地 誌 Ⅲ

梅 原 弘 光

今年は主として東南アジアに注目し，その地域的性格を考察し，それを通して同地域と我々との関わりを考える素材を提供してみたい。テキストは使用しないが，参考文献については授業の途中で適宜紹介する。

都 市 地 理 学

今 朝 洞 重 美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか，日本，外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕 山鹿誠次『都市地理学』（大明堂）

計 量 地 理 学

奥 野 隆 史

次のトピックについて平易に説明し，実際の地理学的調査研究に役立たせるようにする。(1)地理的データの入手と整理と吟味，(2)点的事象の分布解析，(3)線的事象の構造分析，(4)面的事象の共変動分析，(5)シミュレーション。

〔教科書〕 『計量地理学の基礎』（大明堂）， ¥ 2,400

応 用 地 理 学 Ⅰ

高 木 正 博

自然環境の変貌について，災害や各種の人為的な改変との関係からとらえる。また，治水・利水に関する問題を，地理学と他の研究分野と関連させていく。

- 〔参考書〕 西村嘉助『応用地形学』（大明堂）
大矢雅彦『河川の開発と平野』（大明堂）

応用地理学 II

今野修平

地域を研究対象とする地理学の領域のうち、人間の意志（政策）に基づいて地域を意図的に変化させていることを主対象に講義する。このためその領域は、地域開発政策、地域計画、地域の環境保全、そして政策の根幹である全国総合開発計画まで行う。一貫して地域はいかにあるべきかの視点に立ち、国土や地域の未来を考察する。

- 〔教科書〕 西村嘉助『地域変化』（大明堂） 西村嘉助『地域と環境保全』（大明堂）
『国土庁第三次全国総合開発計画』
〔参考書〕 西水孜郎『国土計画』（三全総研究会）『三全総の発想と構築』（創造書房）
『第三次全国総合開発計画』〔全6冊〕（国土計画協会）『国土六法』
『2000年の日本』

文化地理学

菱口善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち (1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概説する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

空中写真判読法及測量学

小池一之

測量学の基礎的事項を中心に講義する。随時課題を出すので、かならず締切日までに提出すること（課題数は年間 5—6）。また、対数、三角函数（数学Ⅰ程度）の復習もしておくこと。また、実習も含まれる。

- (1) 誤差論 (2) 角の測定 (3) 距離測定 (4) 水準測量 (5) 多角測量 (6) 地形測量 (7) 写真測量 (8) 写真判読法 (9) リモートセンシング

- 〔教科書〕 小田部和司『図解土木講座測量学』（技報堂出版） ¥ 2,800

地理学特講 I

長野 覚

高等学校・中学校の地理（社会科）教員の採用試験を受験する3、4年生を対象とするが、特に4年生で受講することが効果的である。指導内容は、現在進行中の小・中・高校一貫した社会科教育のカリキュラム大改訂に対応して受験可能なように、1学年以来習得した地理学の教科内容を、集約・整理することに重点を置く。期間は前期、テキストはプリントを主体に進める。

- 〔参考書〕 日本国勢図会・日本のすがた・高校地理教科書・中学校地理・歴史・公民教科書・地図帳等。

